

令和2年度使用

小学校教科用図書の
選定に必要な資料

教科用図書益田採択地区協議会

各発行者の記号は以下の通りである。

- | | |
|---|----------|
| A | 東京書籍 |
| B | 大日本図書 |
| C | 開隆堂 |
| D | 学校図書 |
| E | 三省堂 |
| F | 教育出版 |
| G | 教育芸術社 |
| H | 信州教育出版社 |
| I | 光村図書 |
| J | 帝国書院 |
| K | 新興出版社啓林館 |
| L | 日本文教出版 |
| M | 文教社 |
| N | 光文書院 |
| O | 学研教育みらい |
| P | 廣済堂あかつき |

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (国語) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○5、6年においては、中学校への移行を考慮して、また、自主的・主体的に既習事項を確認しやすくするため、分冊ではなく1冊の教科書で対応している。</p> <p>○3年上までの読み物教材においては、児童の発達段階が配慮され、各段落が見開き2ページで完結するように構成されている。</p> <p>○1・2年生の教科書では、すべてのページで分かち書きがされ、単語や文節の途中での改行にならないように表記され、読みやすくなるように配慮されている。</p> <p>○「はをつかおう」「をへをつかおう」では、助詞を入れる過程をモデルステップで示し、さらに視覚的に表現することで、とらえやすくなるように工夫されている。(1年上 p.48)</p>	<p>○各単元のはじめと終わりで「つかむ」→「ふり返る」の流れを示し、「言葉の力」を意識して学習できるように構成が工夫されている。</p>	<p>○1年上では、スタートカリキュラム対応期の教材として、カラフルな紙面で構成されている。また、ページの数字も大きく表記されている。(1年上 p.1-25)</p>	<p>○3年の早い段階でローマ字の学習を取り入れ、3・4年で繰り返しローマ字の学習が配置されている。</p>	<p>○情報活用の単元「町の未来をえがこう」では、教科等横断的な指導をすることによって総合力を発揮し、より効果的に課題を解決することができるよう単元構成が工夫されている。(6年 p.138)</p> <p>○単元の最終ページの多くに「生かそう」のコーナーがあり、既習事項を他教科や生活の中のどんな場面で生かせるか明記されている。</p> <p>○他の教科等と、関連し横断的な指導が図れるように単元構成が工夫されている。(1年下 p114～117、2年上 p72～75・下 28～32)</p>	<p>○「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」では、隠岐郡海士町の取組が紹介されており、ふるさと教育の視点や郷土への親しみ、誇りにつながる内容となっている。(6年 p.145)</p> <p>○「いいつたえられているお話を知ろう」では、「やまたのおろち」や「いなばの白うさぎ」が紹介され、地域の文化や関心を高め、愛着や誇りを持つことにつながる内容になっている。(2年上 p.98)</p>	<p>○国語科で育む資質・能力を「言葉の力」として単元冒頭と単元末に示し、どんな力を身に付けるのか、児童も教師もはっきりと意識できるよう工夫されている。</p> <p>○教科書全体にユニバーサルデザインが取り入れられ、色の見分けやすさ、分かち書きによる読みやすさ、写真の活用、挿絵ではあえて表情を隠す配慮など、様々な配慮がなされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (国語) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
D	<p>○5、6年でも上下2分冊にすることにより、文章量が増え、内容が複雑・高度になる高学年において、ゆとりをもったページ構成としている。</p> <p>○6年の上下巻の資料編では、読み物資料が3つ掲載されており、児童の興味や実態に合わせて学習できるよう工夫されている。</p> <p>(6年上p.136,6年下p.126,p.140)</p> <p>○1年生初めの読み物教材「かえるのかさ」では、活字を大きくすることで、抵抗なく文字に目をやり、読みやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>○「AIで言葉と向き合う」では、同じテーマで書かれた2つの文章を比べて読む活動が示されており、物事を多面的に見たり考えたりできるように工夫されている。</p> <p>(6年上p.52)</p> <p>○「どう考える?この投書」や「より良い考え方はどっち?」など、そのまま問いとして活用できるような単元名が工夫されている。</p> <p>(5年下p20,p108)</p>	<p>○「経験や知識をもとに導き出そう」では、叙述をもとに登場人物の様子について類推するゲームが示されており、児童が興味をもって物語を読むよう工夫されている。</p> <p>(6年上p.70)</p> <p>○年度当初の小単元にある「言葉でつながる」は、ゲーム的な要素を取り入れながら楽しく対話力を高める内容になっている。</p> <p>(6年上p.14,2年上p.8)</p> <p>○「レッスン」「コミュニケーション」などの小単元が多く掲載され、参考資料になると共に必要に応じて習熟を図ることができる</p>	<p>○「電子メールで質問しよう」「文章構成の効果を考える」「『本物の森』で未来を守る」「日本の魅力,再発見」では、序論・本論・結論の三段構成を提示してあり、一年間を通して文章構成を意識した学習活動が展開できる構成になっている。</p> <p>(6年上p.72,98,6年下p.10,86)</p> <p>○「ミラクルミルク」や「ネコのひげ」では要約を見つける手順や要約文を作る手順が示されており、児童が方法を理解できるよう工夫されている。</p> <p>(3年上P45,下P16)</p> <p>「主語と述語」や「しゅうしょく語」では、学力調査で課題の見られた主語・述語・修飾語の関係を初めて学習する際に、練習題を増やし、確実な定着を図っている。</p> <p>(2年上p.30)</p>	<p>○「電子メールで質問しよう」では、児童にとって身近な電子メールを題材に文章構成を学ぶ内容となっており、実生活と関わりのある内容となっている。</p> <p>(6年p.72)</p> <p>○「こんなものがほしいなあ」や「言葉について調べよう」では、全ての教科の基盤となる言語能力を育むため、他教科の学習でも多く活用できる言語活動が多く取り入れられている。</p> <p>(2年下p.38)</p>	<p>「昔の物語を楽しもう」単元では、「ヤマタノオロチ」が紹介され、地域の文化や関心を高め、愛着や誇りをもつことにつながる内容になっている。</p> <p>(2年上p.112)</p> <p>○「日本の魅力,再発見」では、調べ学習を通して発表することにより自分の身近な生活を振り返られるように活動が設定されており、意欲的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>(6年下p.86)</p> <p>○「学校を百倍すてきにしてしよう」では、学校生活での児童会活動などでの話し合いに活用できる内容となっている。</p> <p>(5年下p26)</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の領域では、複数ページで展開する活動の概要が単元の冒頭に一覧で提示され、「学習の見通し」をもてるよう配慮されている。</p> <p>(6年上p.58)</p> <p>○ワークシートのように直接書き込めるページや習熟を図るための小単元のページが所々に掲載されており、適宜スキルアップを図ることができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (国語) No. (3)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
F	<p>○5、6年でも上下2分冊になっており、文章量が増え、内容が複雑・高度になる高学年において、ゆとりをもったページ構成になるよう工夫されている。</p> <p>○6年の上下巻の付録では、読み物資料が3つ掲載されており、児童の興味や実態に合わせて学習できるよう工夫されている。</p> <p>(6年上 p.126, 6年下 p.116, p.134)</p> <p>○1年生初めの読み物教材では、活字を大きくすることで、くまとありのセリフが大きい活字と小さい活字で区別されており、視覚的に分かりやすくなっている。</p> <p>(1年上 p.30)</p>	<p>○「大造じいさんとガン」では、物語の基本構造を図式化してわかりやすく示している。</p> <p>(5年上 p.105)</p> <p>○「世界の人に伝わるように」では、タイムリーなオリンピック競技のピクトグラムを題材として取り上げている。</p> <p>(3年下 p.5)</p> <p>○読み物教材の単元末には見開き2ページにわたって、またその他の単元でも初めのページの小さなコーナーに、学習の流れが同じパターンで紹介されており、見通しをもって学習できる工夫がなされている。</p>	<p>○1年上では、スタートカリキュラムの「導入単元」として、やわらかい色調の絵や文字のない紙面で構成されている。</p> <p>また、学校生活の場面が多く取り上げられ、無理なく生活化が図られている。(1年上 p.1~15)</p> <p>○巻末の本の紹介で取り上げられている本がジャンル別に分類されており、図書館指導との連携が図りやすい形で掲載されている。</p>	<p>○「おもしろいもの見つけたよ」では、付箋メモにまとめごとを書くことで、並べ替えやすぐ伝わりやすい文章を書くことができるよう工夫されている。</p> <p>(2年下 p.18)</p>	<p>○「地域の防災について話し合おう」「パンフレットで知らせよう」「6年生で読みたい本②」では、災害特に地震に関する内容をもとにして活動するようになっていたり資料を紹介したりされており、実生活に活かせるよう工夫されている。</p> <p>(6年上 p.66, 72, 143)</p> <p>○「情報ノートを作ろう」では、発展的な学習や家庭学習で児童が取り組みやすいように、例などが工夫されて掲載されている。(5年上 p38)</p> <p>○「調べて分かったことを発表しよう」では、探究的な学習過程が一つの単元の中で網羅されており、他の課題解決的な学習にも応用できる構成になっている。</p> <p>(4年下 p.94)</p>	<p>○付録に「いなばのしろうさぎ」が紹介され、地域の文化に関心を高める内容になっている。</p> <p>(2年上 p.134)</p>	<p>○1年下以上の巻頭には、「○学年で学ぶこと」が設置され、これからどんなことを学ぶのか、どんな国語の力が身につくのが1年間の学習が系統的に示されている。</p> <p>○構成力をつけるための手立てや、課題についてまとめるための思考ツールとしてのイメージマップや図、児童の思考を表現したふき出しの活用など、様々な手立てが丁寧に施されており、児童にとっても指導者にとっても分かりやすい内容でまとめられている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (国語) No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
I	<p>○5、6年においては、中学校への移行を考慮して、また、自主的・主体的に既習事項を確認しやすくするため、分冊ではなく1冊の教科書で対応している。</p>	<p>○「情報の扱い方」に特化して、単元と関連させながら言語活動の中で確実に力がつくよう、2年以上に4つの教材系列「考えるときにつかおう」「調べるときにつかおう」「関係をとらえよう」「あつめるときに使おう」が配置されている。 (6年p.7,5年p.57,4年上p.86,3年上p.9,90,下p.9,50) ○各単元末に見開き2ページで学習の流れが紹介されており、見直しをもって学習できる工夫がなされている。 ○単元の扉のページでこれまでの学習内容と学びの視点が与えられており、系統的に学習できるようにになっている。また単元末の振り返りで自己評価を行い、さらに「生かそう」で生活化が図られる流れとなっている。(3年下p.48)</p>	<p>○1年上は、明るく楽しい絵とストーリーで始まり、想像豊かに、楽しく学べるよう工夫されているとともに、1年児童の見つける力や話す力を生かした教材になっている。 (1年上p.1~8)</p>	<p>○「考えを図で表そう」では、イメージマップなど多様な思考ツールが紹介されている。 (6年p.254) ○「利用案内を読もう」では、文章や図表など、多様な資料をから必要な情報を取捨選択して読み取る力を育てるための工夫がなされている。(6年p.96) ○「言葉の意味が分かること」では、文章の要旨をとらえる方法や150字以内でまとめる活動が示され、要約する力が高められるよう工夫されている。(5年p.54)</p>	<p>○様々な場面で活用したい力やスキルが付録にまとまっており、国語学習にかかわらず、他教科の学習等の中で参考できるようになっている。(6年p.252~264) ○原稿用紙の正しい使い方を確認し、様々な教科の「書くこと」に生かせるよう付録に「げんこう用紙の使い方」が配置されている。 (2年下p.138,3年p.138,4年上p.134) ○単元末に「たいせつ→生かそう」「ふりかえろ→つなぐ」という確認事項があり、既習事項を他教科の学習や実生活に生かす意識を高める工夫がされている。 (4年下p.41)</p>	<p>○地域に伝わる民話や神話として、「いなばの白うさぎ」が紹介され、地域の文化に関心を高め。愛着や誇りをもつことにつながる内容になっている。(2年上p.38)</p>	<p>○説明文の学習では、主教材の前に、「練習」として短い説明文が見開きで示されており、児童が既習事項を生かして読む力が高まるよう工夫されている。 (6年p.46,3年上48) ○2年以上の「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の単元には、「学習の進め方」が冒頭に位置付けられ、活動の順序を意識できるように配慮されている。「読むこと」領域の学習においても、単元末に上下2段組み構造をとることで、流れが見通しやすくなるよう、工夫されている。 (2年上p.34) ○昔から読み継がれている作品が多出しており、すぐれた作品に出会うことができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (書 写) No. (2)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○全学年を通し、文字を整えて書くための原理・原則を「書写のかぎ」と名付け、「書写のかぎ」を使って整った文字を書くようにわかりやすく示されている。</p> <p>○低学年では、1ページの中に示されている文字の数が少なく、1つの文字が大きく示されているため、負担の少ない量になっている。(1年 p.8・9)</p>	<p>○3年生以上は「書写のかぎ」を「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」という課題解決型の展開になるように構成されている。振り返りで対話を取り入れることで、理解を深められるように工夫されている。(3年 p.16)</p> <p>○「書写のかぎ」の欄に文字を整えて書くためのポイントとなる言葉を書き込めるように工夫されている。(3年 p.16)</p>	<p>○低学年では、巻末に水書用紙がつけてあり、「はね」や「はらい」などの筆圧の変化を伴う運筆で手指の動きを体感できるように工夫されている。(1・2年)</p> <p>○書き始めと書き終わりに記号をつけて、字形が整えられるように工夫されている。(1年 p.9)</p> <p>○文字の点や画を分解し、それぞれ色を変えて示されているため、どこまでを一筆で書くのかのわかりやすい。擬態語やキャラクターの動きを加えたりして理解しやすいように工夫されている。(1年 p.30)</p>	<p>○全学年に掲載の「書いて味わおう」では、発達段階に合わせて童謡や俳句、短歌、古文などを書く活動が設定されていて、伝統的な言語文化にふれることができるように工夫されている。</p> <p>○浜田市の石州半紙や隣県の熊野筆の筆類を取り上げるなど、書家や伝統的な文化にふれることができるように工夫されている。(3年 p.21, p.57)</p>	<p>○「生活に広げよう」では、手紙、ポスター、リーフレットなどを取り上げ、書写で学んだことを他の教科との関連を図って活用できるように工夫されている。(2年 p.38 5年 p.24)</p> <p>○全学年の「文字のいずみ」を設け、筆記用具の作り方、文字の種類や世界の文字などが紹介されており、文字や用具などに関心を広げていくように工夫されている。(4年 p.19)</p>	<p>○3年生以上に「書写のかぎ」インデックスがついていて、学習事項と既習事項が色分けして示されている。既習事項のページがすぐにわかるため、既習事項を確認しながら書くことができるように工夫されている。</p> <p>○左手で書く時の道具の置き方を示したり、左右どちらの行でも書き込める欄を設けたりするなどの工夫がされている。(3年 p.5, 2年 p.19)</p>	<p>○教科書のサイズがワイド版で、写真や図、イラスト、手本になる文字のサイズも大きく掲載されているため、学習内容がわかりやすい。</p> <p>○全学年、ねらいとなる「書写のかぎ」と学習の流れがわかりやすく示されている。主体的、対話的で深い学びを実現するための問題解決的な学習、対話を取り入れた学習の流れになるように構成されている。</p>
D	<p>○全学年、各単元で同じように「学習の進め方」が示されており、学習の流れがよくわかる。</p> <p>○「振り返ろう」では、学習したことを振り返りながら、学校生活や日常生活に即した様々な課題を設定し、学習したことがより生かせるように工夫されている。(3年 p.27, 5年 p.13)</p>	<p>○「学習の進め方」として「たしかめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」が示され、課題解決型の学習の流れになるように工夫されている。課題となる文字を書けるようになるための見方、考え方を「書き方のカギ」と名付け、書く時のポイントをわかりやすく示している。(3年 p.24～p.27)</p> <p>○毛筆においては、半紙原寸大の手本になっていて活用しやすくなっている。書初め教材も開いてそのまま使えるように工夫されている。(3年 p.28 p.29)</p>	<p>○低学年では、課題の発見を助けるシールが用意されていて、目標のポイントになるところや自分の課題となるところに貼ることで意欲を持って取り組めるように工夫されている。</p> <p>○全学年において、キャラクターが登場し、学習のめあてやポイントを示しながら学習を進めていく構成になっているため、児童が興味を持って学習しやすくなるように工夫されている。(目次)</p>	<p>○「書写の不思議」では、隣県の山口県の石を使って作られる赤間硯を取り上げたり、和紙やすみの製造法を掲載したりしながら文字文化への興味・関心を広げられるように工夫されている。(3年 p.15, 4年 p.5 p.48)</p> <p>○学年のまとめのページでは、自分の目標や学校の生活目標を自分で考えて書く欄が設けてあり、1年間で学習したことを実際の生活に生かして書く構成になっている。(2年 p.35, 5年 p.35)</p>	<p>○全学年、書写の学びを深め、様々な場面で生かせるように、「書写の資料館」が設けられていて、都道府県を書くコーナーやはがき、原稿用紙、手紙の書き方など、文字に関わる様々な資料が掲載されている。(4年 p.49～p.59)</p> <p>○教材とする漢字に当該学年の新出漢字を取り上げ、毛筆で学んだことを生かして書けるように工夫されている。(4年 p.30)</p>	<p>○4年生以上の「書写の資料館」で都道府県名を書き込むページがあり、都道府県名が定着するように工夫されている。(4年 p.49)</p> <p>○6年の学習の発展として、中学校で学ぶ行書が取り上げられていて、今後の学習に興味を持つことができるように工夫されている。(6年 p.50)</p>	<p>○すべての単元に書き込みができる欄が多く設けられているため、文字を書きながら考え、学ぶことができるように工夫されている。(2年 p.16～p.17)</p> <p>○全学年で「学習の進め方」が示されているため、学習の見通しを持って、課題解決型の学習を進められるように配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (書 写) No. (2)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
F	<p>○「横角」の筆使いでは、見開き2ページで筆の使い方を示し、筆角の向きなどを自分でも確かめられるように工夫されている。(3年 p.12,13)</p> <p>○「大」での「はらい」、「力」での「おれ」と「はね」、など筆使いについて、穂先の写真やポイントを示し丁寧に説明されている。(3年 p.18,19, p.25)</p> <p>○「あこがれ」では、見開き2ページで、ひらがなの書き方について、穂先の写真やポイントを示し、丁寧に説明されている。(5年 p.28,29)</p>	<p>○書き誤りやすい似ているひらがなを見開き2ページで集め、なぞることで違いを意識し定着が図れるように工夫されている。(1年 p.14,15)</p> <p>○「学習の始めと終わりに書こう」で「ためし書き」と「まとめ書き」をすることにより、授業前後の硬筆での確かめができるよう工夫されている。(3年以上)</p>	<p>○世界の「こんにちは」として、世界のあいさつを書き文字で表現し、世界の文字文化への興味・関心を高める工夫がされている。(4年 p.1)</p> <p>○文字の組み立て方は「土地」(左右)と「岩山」(上下)の二つから選んで書くようにしてあり、自分でコースが選べるように工夫されている。(4年 p.36,37)</p> <p>○文字の旅では、日本の文字の歴史をたどることにより日本語の特徴を示し、身の周りの文字への関心を高める工夫がされている。(6年 p.1)</p>	<p>○「かたかなのひょう」ではそばにその文字を使う言葉とイラストを置くことで、言葉として意識して書けるよう工夫されている。(1年 p.47)</p> <p>○「書いて伝えよう」では、イラストや写真で子供同士が関わりあう様子を示すことで、友達同士で伝え合う学習ができるよう工夫されている。(全学年)</p>	<p>○「レッツトライ」では、身に付けた書写の力を各教科で使えるように、色々な教科(算数・生活・国語・図画工作・社会)での書き方(算数ノート・れんらくちょう・聞き取りメモ・暑中みまい・原稿用紙・作品カード・発表資料・理科ノート・敬老の日はがき・短歌・防災かるた・工場見学メモ・委員会ポスター・話し合いメモ・国語のノート・リーフレット・小筆を生かして)を紹介している。(全学年)</p>	<p>○手書き文字と近い形の書体(UD デジタル教材書体)を採用している。</p> <p>○振り返りが三段階で自己評価できるよう工夫されている。(全学年)</p> <p>○教科書に収録されているすべての毛筆教材について、書いている様子を真上から撮影した動画(専用ウェブサイト「まなびリンク」)が視聴できる。</p>	<p>○試し書き、考える、確かめ、まとめ書きの順番で学習を構成するようにしている。(全学年、1年は p.26 より)</p> <p>○身に付けた書写の力を各教科と結びつけられるよう工夫されている。(全学年)</p>
I	<p>○教科書のページ数を減らすことで、入門期の児童への負担を軽減できるよう工夫されている。(1年)</p> <p>○「言葉を楽しもう」では、学年にあった内容(2年「いろはうた」、3年「は」、5年「竹取物語」、6年「やまなし」)を選び、なぞって言葉が味わえるよう工夫されている。(全学年)</p>	<p>○「書写ブック」では6年間で身に付けた力を確認し、日常生活で生かせるよう書体の要素をまとめ、主体的に学習が行えるよう工夫されている。(6年 p.19~25)</p> <p>○部分の組み立て方では、木へんと木の違い(左右)、雨かんむりと雨の違い(上下)が色を変えて重ねて記載しており、違いが分かりやすく工夫されている。(4年 p.8,12)</p>	<p>○3年の毛筆導入学年においては「たしかめようシール」を用い、始筆・送筆・終筆など点や核の書き方や方向が確かめられるよう工夫されている。(3年 p.1)</p> <p>○「自分だけの一文字」では同世代の有名人の書いた一文字とともにコメントを紹介している。(6年 p.40,41)</p>	<p>○3年以上の「漢字図鑑」のコーナーでは、漢字の成り立ちがイラストで開設されて、児童の文字への興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年以上)</p> <p>○「たいせつ」では、児童の主体的な学習の助けとなるように構成され、巻末にまとめて掲載されており、焦点化と系統性について工夫されている。(2年以上)</p>	<p>○「わすれものゼロ作せん」として連絡帳の書き方を紹介し、毎日書く連絡帳への意識付けができるよう工夫されている。(2年 p.33)</p> <p>○学年の「まとめ」として「六年生を送る会に向けて」をテーマにして、書写で学習したことを活動に生かせるよう工夫されている。(6年 p.36,37)</p>	<p>○二次元コードをタブレットで読み取れば動画が閲覧でき、しょしゃたいそう(1・2年)筆遣いの確認(3年以上)やグループ学習(5年「めざせ!新聞記者」、3・4・6年「もっとしりたい」)に活用できるよう工夫されている。(5年 p.22)</p> <p>○2年生の始めから漢字の「書きじゅん」が始まっており、書き順が大切であることを意識させるよう工夫されている。(2年 p.6,7)</p> <p>○カラーUDや文字が小さい箇所にはUDフォントを採用している。(1年 p.28,3年 p.14)</p>	<p>○手指の運動性を重視し、「書写体操」を推奨してよい姿勢を維持できるようにしていたり、空書き指導を採用したりして、体を使って書くことを意識付けするよう工夫されている。(1年 p.2,2年 p.1,3年 p.57)</p> <p>○説明やイラストを最小限に抑え、大切なことが見てわかるように紙面が構成されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (社会) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○各学年の最初の単元に、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現する問題解決的な学習の進め方を具体的に示し、児童が問題解決に向けて主体的に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○深い学びにつながる「社会的な見方・考え方がイラスト(キャラクター)で示されており、見方・考え方を働かせて問題解決的な学びを進めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○ワイド判をいかし、見開きを使った迫力のあるイラストや写真等の資料を多数提示し、主体的に楽しく学ぶことができるよう配慮されている。(3年 p.73-74.122-123 4年 p.32-33 5年 p.76-77)</p> <p>○防災教育やキャリア教育、ICTなど、現代社会における今日的課題について、児童が主体的・多角的に考察できるように各学年で積極的に取り入れられている。(6年 p.24-25 他)</p>	<p>○「D(デジタル)マーク」が示す箇所には、クイズや動画など、学習への興味・関心をより高めることができるDマークコンテンツが用意され、家庭で学習でも活用できるよう工夫されている。</p> <p>○「日本地図を広げて」では、47都道府県の形と特徴から名称をこたえるクイズなど、都道府県や日本地図に対する興味・関心が高められるよう工夫されている。</p>	<p>○「残したいもの伝えたいもの」では、松江城の取り壊しの危機を救った人々のことや松江市の地域の文化財を活用した町づくりについて取り上げられている。(4年 p.140)</p> <p>○「今に伝わる室町文化」では、雪舟が石見を訪れたことが本文中に示されている。(6年歴史編 p.58)</p>	<p>○社会的な事柄に参画・提案する「いかす」場面(ポスターにして伝えたり、自分で行うことを考えたりするなど)を、今日的な教育課題にかかわる箇所を中心に例示している。(3年 p.140-141,4年 p.94-95,5年下 p.138-139,6年政治・国際編 p.58-59)</p> <p>○「教科関連マーク」で、他教科との関連が明示されており、教科横断的な視点から学習に取り組むことができるよう配慮されている。(4年 p.76,5年上 p.76)</p>	<p>○3年から5年の巻末に、学年の学習内容をさまざまな方法(考え方)で振り返る「どのように学んだか振り返ろう」が設けられており、次の学年の学びに生かされるよう配慮されている。(3年 p.146,4年 p.179,5年上 p.127,5年下 p.142)</p> <p>○6年の教科書は「政治・国際編」と「歴史編」の2分冊構成とされており、歴史学習が分断せず1冊の本で学習できるよう配慮されている。</p>	<p>○どの学年も「学習の問題を追究・解決する活動」を重視した問題解決的な学習を「学習問題をつかむ・調べる・まとめる・いかす」を基本とし、わかりやすく学習が進められるよう配慮されている。</p> <p>○各学年の冒頭には、前学年で学んだことと当該学年学ぶことを掲載し、巻末には、当該学年で学んだことを掲載することにより、見直しをもって学習を進められるよう配慮されている。</p>
F	<p>○全学年の巻頭にある「社会科の学習の進め方」では、「つかむ・調べる・まとめる・つなげる」の学習の流れがモデル図を用いて示され、見直しを持って学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○全学年の巻頭に「社会科の見方・考え方」というページを設け、どのような視点や方法で学習していくかがわかりやすく示されている。</p>	<p>○歴史年表が古代から現代まで見通せる形になっている。また、歴史年表の読み取り方や「世紀」「時代」という用語の解説が年表の裏に記載されている。(6年 p.69)</p> <p>○6年生では写真や想像図のスペースが大きく、資料から読み取る力を育てられるよう配慮されている。(6年 p.75)</p>	<p>○全学年で小単元の最後に「次につなげよう」のコーナーがあり、次で何を学習するのかポイントを明らかにすることによって、学習の見通しを立てられるように工夫されている。</p> <p>○児童が普段目にする地図と異なる向きや世界地図と異なる向きの地図が掲載されており、多様な見方を引き出したり、地図への関心を広げたりできるように工夫されている。(5年 p.6)</p>	<p>○教科書の中に登場する子どもたちのセリフに「絵の全体を見ると」のような吹き出しがあることによって、社会的な見方・考え方の視点や方法を引き出しやすくなっている。</p> <p>○5年上「日本の国土とわたしたちの暮らし」(5年上 p.16)、6年「平和で豊かな暮らしをみざして」(6年 p.226~227)では、竹島問題等の領土に関する問題について紹介されている。</p>	<p>○全学年で「ひろげる」というコーナーがあり、これまで学習した内容を使って実生活のことを探求できるように工夫されている。</p> <p>○3年の店で働く人の学習では、児童が普段の生活でよく目にするレシートを教材として取り上げたり、「買い物のおしりくみ」について説明したりするなど、生活場面とのつながりが意識されている。(3年 p.48)</p>	<p>○全学年で人口減少について考える教材が設定されており、社会参画に向けた資質・能力を高められるように工夫されている。(3年 p.157,4年 p.73,5年 p.137,6年 p.42)</p> <p>○単元の導入が身近なところから始まっており、自然な流れで学習できるように工夫されている。</p>	<p>○学習の流れを示したモデル図を挿入したり、資料の読み取り方を示唆する記述があったりと円滑に学習を進められるように工夫されている。</p> <p>○「この時間の問い」で各時間の問いを例示するとともに、終末の「次につなげよう」で、次の時間の問いにつながりが持てるよう配慮されている。(6年 p.92)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (地図) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○ユニバーサルデザインに配慮された大判(A4)全102ページの構成、色覚特性へのカラーバリエーションや、UDフォントの使用、紙質も工夫に耐える仕上がり(糸がかりの強化、ニス引き加工)になっている。</p> <p>○3年生からの使用をふまえ、地図学習の導入がスムーズに行えるよう工夫がみられる。(p.7~14)</p>	<p>○索引記号・番号に矢印が付いている。また、方位、縮尺、地形表現や、地域の実態が分かるような写真資料が同ページに掲載されているため、その土地の理解が深まる構成になっている。</p> <p>○各地の伝統工芸品や名産品、郷土の発展に尽くした偉人の記念館などを多数取り上げており、郷土への誇りがもてるよう構成されている。</p> <p>益田・鹿足に関連する内容として、森鷗外記念館や笹ヶ谷、医光寺、わさび等が紹介されている。(p.27)</p>	<p>○多数のキャラクターを随所において用いており、地図活用の手掛かりになっている。(p.5)</p> <p>○くらべてみよう日本と世界」では、写真やイラスト、図を効果的に用いている。また、建物の高さの比較や、オリンピック・ワールドカップなど児童が知っているキーワードを使うことで、興味を持てるよう工夫されている。(p.81~82)</p>	<p>○日本の領土と周辺諸国に関する内容が充実。領土問題に関する用語についても丁寧に解説している。(p.15~16)また、竹島に関する資料(地理的・写真資料)も掲載されている。(p.27)</p> <p>○「日本の歴史と文化」では、石見銀山(写真)出雲大社・松江城(イラスト)が世界遺産として紹介されている。(p.79~80)</p>	<p>○索引や統計資料の文字が大きくなり、行間が広がったので、読み取りやすくなっている。索引の見方も分かりやすく提示されている。チェック欄は履歴として使えるので、もっと調べたいという意欲につながる。(p.83~96)</p> <p>○地球儀の見方は特設ページで丁寧に解説している。(p.55~56)</p> <p>○世界全国の頁には、国旗が地域ごとにまとめて掲載されている。(p.100~102)</p>	<p>○3年生配当以上の漢字には読み仮名、説明文は文節改行で読みやすい。</p> <p>○Dマークを設け、デジタルコンテンツやWebサイトへリンクできるようになっている。</p> <p>○教科書と同じ地図やテーマを用いることで、より詳細な情報を掲載できる。</p> <p>○統計資料や世界スケールの歴史地図、多くの関連した写真を載せることで、資料集としても活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○地図学習の導入から、地域、国土、世界、歴史学習へと4学年の学習内容を意識したつくりとなっている。</p> <p>○統計資料の充実は、年鑑と併せて学習することで、資料を読み取る力を育てるのに効果的である。(p.69~73)</p> <p>○自然災害と地形や気候との関係について丁寧に解説されている。(p.97~99)</p> <p>○写真による世界遺産の解説、主な貿易の相手国とその内容、日本の歴史を振り返る等の資料から、世界に目を向け、その中の一つの国である日本を意識できる内容となっている。(p.73~82)</p>
J	<p>○文字には、UDフォントが使われ、文字サイズも大きくなっている。各ページのレイアウトの統一、文章の改行位置も工夫され、読みやすい。</p> <p>○紙質にも配慮があり、手触りがよく、めくりやすく、製本も強固にできている。</p> <p>○書き込み式のページがあり、作業をしながら学習ができるように工夫されている。(p.1, 10, 12, 13, 14,)</p> <p>○「地図帳の使い方(2)」に、索引の使い方が詳しく説明されている。(p.17)</p>	<p>○「世界発見!」では、3年生が世界地図に親しみを持てるように載せる国が厳選され、関連するイラストや外国の挨拶も掲載されている。(p.3~5)</p> <p>○「広く見わたす地図」では、地名等の情報量が適度に押さえられ、3年生の地図学習の導入がスムーズに行えるように工夫されている。(p.19~28)</p> <p>○地図が中学年向けのものから高学年向けの詳しい内容の順に配列され、発達段階に配慮されている。</p> <p>○見開きの右ページ部にインデックスが色分けされており、探しやすくなっている。</p>	<p>○「広く見わたす地図」には、大きなイラストが多数掲載され、地図に興味を持たせる工夫がなされている。(p.19~28)</p> <p>○高学年向けの詳細な地図は、絵記号がくっきりしており分かりやすい。</p> <p>○「地図マスターへの道」は授業だけでなく、家庭学習でも使用できる。</p> <p>○各ページにキャラクターが登場し、子ども自身が調べたり考えたりできる作りになっている。</p> <p>○「都道府県の名前と位置」では、形や文字や手話で都道府県の興味・関心を高める工夫がされている。(p.115)</p>	<p>○「日本の領土とそのまわり」では、日本の領土や排他的経済水域が一目で分かるレイアウトになっている。また、北方領土・竹島・尖閣諸島についても、写真とともに解説が掲載され、領土問題に関心を持たせるよう工夫されている。(p.29~30)</p> <p>○益田・鹿足に関連する内容としては、SLやまぐち号、鷲舞、わさびが掲載されている。(p.21, 37)</p>	<p>○「世界発見!」では、各国のこんにちを掲載し、外国語活動などでも活用できるようになっている。(p.1)</p> <p>○「世界と地球儀」では、地球儀の使い方が詳しく掲載されている。(p.73~74)</p> <p>○「集まれ!世界の子どもたち」では、外国の文化や子どもに身近な内容が掲載され、外国への興味・関心を高める工夫がされている。(p.75~86)</p> <p>○「日本の自然災害と防災(1)」では、日本のどの地域で地震が多く発生するかが一目で分かるようになっている。(p.91~92)</p> <p>○「日本の自然災害と防災(2)」では、地震への備えを今と昔を比較しながら掲載し、防災意識が高まるよう工夫されている。(p.93~94)</p>	<p>○表紙が、子どもたちが気球に乗って世界中を旅するイメージになっており、地図学習に対するワクワク感が感じられる。</p> <p>○「広く見わたす地図」には、スケールが「ものさし」の形で示されており、縮尺に馴染みやすくなっている。(p.19~28)</p> <p>○「日本の自然のようす(2)」の気候について、見開きで分かりやすくまとめてある。(p.89~90)</p> <p>○「日本の産業のようす」の農林水産業、工業、貿易・観光がそれぞれ見開きでまとめられ、地図・表・グラフが大きく分かりやすい。(p.89~90)</p> <p>○地図中に歴史の記号もあり、6年生の歴史学習でも使える作りになっている。</p>	<p>○ページ全体に渡って色づかいがよく、どのページをめくっても美しい仕上がりになっている。</p> <p>○文字が大きくなり見やすい。</p> <p>○全ての漢字にルビが打ってあり、読みやすい。</p> <p>○写真、イラスト、キャラクターなどが多く使用され、子どもが地図帳を手にとってみたくなるように工夫されている。</p> <p>○3年生の使用を踏まえ、丁寧に説明する部分、情報量を制限して示す部分があり、3年生の使用が考えられている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (算数) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○学年の発達段階に応じて、問題解決のための図やキャラクターなどの吹き出しを設け、丁寧な文脈の可視化を行いながら児童が考えて解決できるように工夫している。</p> <p>○1年生5月中旬までは、入門期として、教科書にそのままブロックがおけるように、また、ノートの下代わり書き込みできるように A4 判サイズで中綴じになっている。(1年①)</p>	<p>○割合について、2 学年より段階的、系統的に分数と関連づけたり倍を取り扱ったりして割合の素地を培ったり、学力調査や結果を基にして、割合の理解の深化を図っている。(2 年上 p.42)</p> <p>○加減計算の図解について、ブロックのシューマから○などの図に置き換え、2 学年では必要感に伴って段階的にテープ図に置き換えていくなど、スモールステップになっている。(1 年②p.112～119)</p>	<p>○6 学年で「算数卒業旅行」を設け、クイズやパズル、和算など楽しく学習できる教材を用意し、児童の興味関心に応じて、探究的な学習活動ができるような工夫をしている。(6 年 p.228～240)</p> <p>○実物の写真を使用し、実生活との関連を意識し、興味・関心を高め、理解に役立つように工夫されている。</p>	<p>○協働的に対話を通して筋道立てて考察したり表現したりする力を育てるために友だちの考えや対話を紙面に表現し、それを読みながら問題解決に取り組むページを設定している。(2 年下 p.16)</p> <p>○2 年生以上の単元末に、当該単元の学習内容と既習を数学的な見方・考え方を介して統合する「つないでいこう算数の目」を設定している。(3 年下 p.49)</p> <p>○「倍の見方」が別単元になっている。</p>	<p>○単元導入の「単元ブログ」では身の回りの事象から数理を見だし、議論する活動を取り入れられるようにし、学習と生活を関連づけ、日常生活に学習を生かそうとする態度が身につくように工夫している。(4 年上 p.84)</p> <p>○4 年「折れ線グラフと表」では、理科の気温の学習を取り上げ、分かりやすくまとめる方法として折れ線グラフや表の有用性が味わえるようにしている。(4 年上 p.20)</p>	<p>○プログラミング教育について、第5,6 学年に単元の学習と関連させた特設ページを設定している。またプログラミングができるデジタルコンテンツを用意し、コンピューターを活用したプログラミングにも取り組めるようにしている。</p> <p>○統計単元について、問題解決のストーリーに必然性をもたせたり、問題解決過程を図式化したり、身の回りの事象を取り上げたりし、統計的な問題解決の方法の段階的理解を図っている。</p>	<p>○「算数で読みどころ(2 学年以上)」「算数卒業旅行(6 学年)」「ますりん通信(2 学年以上)」「かたちであそぼう(3 学年以上)」など児童が関心をもって探究して学習できるようなページを設けている。</p> <p>○授業のまとめでは、知識や技能だけでなく、数学的な見方・考え方もあわせて記述している。3 年の小数の学習では既習を振り返り、統合的な見方・考え方を価値づけている。(3 年下 p.10)</p>
B	<p>○単元カラーが領域別に決められており、学習の系統性を意識しやすくなっている。(全学年)</p> <p>○学習過程を示した「タグ」が付けてあり、巻頭の「算数まなびナビ」とリンクしている。児童に学び方が分かるようになっている。(3 年 p.95～96)</p> <p>○どの学年も1冊で構成され、学習の内容が見通せたり、学び直したりすることができるようになっている。また学校の実態に応じて単元配列の入れ替えが可能である。</p>	<p>○全学年、オリンピックやパラリンピックに関連した内容や問題が扱われている。(3 年 p.108)</p> <p>○日常生活に関連した題材や、学習したことを生活の中で生かせる問題を扱っている。(4 年 p.200)</p> <p>○5,6 年では、「表やグラフを生かそう」のコーナーを設け、統計的な問題解決の一連の流れを繰り返し示している。(5 年 p.182～183,6 年 p.76～77)</p>	<p>○3 年以上に「ふくろう先生のなるほど算数教室」のページが設定されている。このページでは算数が社会で生かされていることが実感できるような話や、単元末の問題と異なる面白い問題が扱われている。(5 年 p.132)</p> <p>○「算数たまたまばこ」では、日常生活から算数を見付けたり、学習したことを生かしたりするページが設定されている。(4 年 p.179,2 年 p.59)</p>	<p>○文章や図・グラフを読み取る力や、考えを表現する力を育成するための「読み取る力をのばそう」のページが設けてある。(6 年 p.136～137)</p> <p>○「ひらめきアイテム」に数学的な見方・考え方が示されている。学習の中で発見したアイテムを巻末シートに記録し、学習で活用できるよう工夫されている。(3 年 p.80,261～262)</p> <p>○3,4 年の「そろばん」では島根の「雲州そろばん」が扱われている。</p>	<p>○算数を生かして仕事をされている方へのインタビューを「算数おしごとインタビュー」として掲載されており、キャリア教育に対応した指導ができるように配慮されている。(4 年 p.251)</p> <p>○リンクマークを付け、家庭科、社会科、理科など他教科の関連を分かりやすく示している。(5 年 p.178)</p>	<p>○全学年に「プログラミングにちょうせん!」のページが設けられている。発達に応じたプログラミング的思考を育てるようになっている。(2 年 p.212,6 年 p.194～195)</p> <p>○学習したことを家庭や生活につながるよう「おうちで算数」が設けられている。また、保護者向けのサポートページがウェブサイトに掲載されている。(1 年 p.39)</p>	<p>○単元末には「たしかめ問題」が設定されている。「たしかめ問題」では知識や技能を評価する問題だけでなく、思考力・判断力・表現力を要するやや長い文章問題や、説明することを求めている問題が扱われている。</p> <p>○単元末に「しっかりチェック」「チャレンジ!」のコーナーを設けてあり、児童の実態に応じて問題が選択できるようになっている。(3 年 p.76～77)</p> <p>○教科書に書き込んだり、教科書上の図を測定したりするよう、作業がしやすい工夫がされている。(4 年 p.146～147)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (算数) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
D	<p>○紙面が全学年A B版になっており、開きやすく教科書上での書き込みもしやすいように広がっている。</p> <p>○全体の課題を精選し、学習指導要領に示された標準時間時数に対して10～20%ほど少ない時間で本文内容を構成している。</p>	<p>○「知りたいな」「説明したいな」「確かめたいな」などのマークと横の小タイトルを入れることで、そこで学習する基礎・基本の知識や技能を明示している。 (5年下 p.56～57)</p> <p>○「アクティブ!!」では生活の中での課題に対して、自分で考え、班で共有し、クラスでまとめるといった授業の流れを提示し、主体的、対話的で深い学びが実現できるように設定されている。 (5年上 p.108～109)</p> <p>○データと折れ線が別単元になっている。</p>	<p>○児童が自力解決を行う上で有効となる図の指導を系統的に意識的に取り入れている。4年生では4マス関係表を取り入れることで、2つの関係を簡単にわかりやすくしている。 (2年下 p.80～81)</p> <p>○単元のはじめでは、簡単な漫画で本単元の学習内容を紹介し、子どもが学習の内容を理解し、意欲をもって入れるよう工夫されている。 (5年上 p.18)</p>	<p>○学び方を学ぶという側面を強く意識して作られている。主体的な学び、対話的な学び、深い学びの3つの学び方について、各学年のページの問いの部分に例をあげてイメージしやすいように示している。</p> <p>○問題解決が必要とされる「見方・考え方」の中で重要な9つを9体のモンスターで登場させることで、子どもが意識し、見方や考え方を身に付けられるようにしている。</p>	<p>○「みんなの町の算数」ページを単元の内容と関連させて活用することで、算数が役立つ場面や算数のもつ美しさを意識できるようにしている。(3年上表2～p.1)</p> <p>○2年「ひょうとグラフ」では、生活科の野菜を育てる学習を取り上げ、野菜を選んだ人数を分かりやすくまとめる方法として表やグラフの有用性が味わえるようにしている。(2年上 p.13)</p>	<p>○どの学年でもプログラミング的思考のページを設定し、筋道を立てて考えることを意識できるようにしている。また、QRコードより実際にパソコン等で試すことができるようになってきている。</p> <p>○教師が指導することと児童が活動を通して発見することをマークとまとめに分かりやすくわけている。</p>	<p>○子どもの思考に沿って「～したいな」マークと小タイトルをつけることで、「今、何をして何を学ぶのか」を子どもが意識しやすくなっている。</p> <p>○問題解決で有効に働く図の指導を大切にしている。4年生で4マス関係表を取り入れることで、変わり方を理解しやすくなるよう工夫している</p>
F	<p>○各領域を貫く数学的な見方に焦点を当てた「算数のミカタ」が単元の間や巻末に掲載され、学びと学びをつなぐ役割を果たしている。 (5年 p.205, 294, 295)</p> <p>○「センスアップ」「算数ミニクイズ」など、教科書下部にコラムがあり、知的好奇心に働きかける工夫がなされている。 (3年下 p.40)</p>	<p>○「整理のしかた」では、目的意識をもちやすく、必要感に迫られる問題場面になるよう工夫されている。 (4年下 p.22～)</p> <p>○「円の面積」では、実際の大きさの円が見開きにあり、マスを数えておよその面積が求めることができるよう配慮されている。 (6年 p.100～)</p>	<p>○授業開きの特設教材を用いることで楽しく解決しながら、学習の進め方を共有できるよう工夫されている。</p> <p>○「広がる算数」では算数とつながりのある事象を取り上げ、子どもたちが興味をもって探究的に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭の「算数で使いたい考え方」では、子どもの言葉で見方・考え方を表現し、言語活動の中で見方・考え方を意識して用いることができるよう工夫されている。</p> <p>○3年のかけ算の筆算の導入から2本の数直線図が使われており、倍の意味を図と関連付けて考えることができるよう工夫されている。 (3年下 p.2, 3)</p>	<p>○「単位量あたりの大きさ」では、単元末で算数を使って日常の問題を解決する場を設け、学んだことのよさが実感できるよう工夫されている。 (5年 p.154)</p> <p>○2年「たし算」では、身近な場面から問題をつくることができるよう工夫されている。 (2年上 p.22, 23)</p>	<p>○単元のもともめでは、知識、技能の確認だけでなく、4コマ漫画を用いて見方・考え方が振り返られるよう工夫されている。</p> <p>○「友だちのノートをみてみよう」では他の人のノートのよいところを見つけた活動を通して、段階的に表現力を高めしていく工夫がある。 (4年上 p.40)</p>	<p>○「算数で使いたい考え方」「算数のミカタ」「学びのマップ」では、指導内容や見方・考え方の系統性を指導に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○子どもの問いから学習のめあてをつくり、見方・考え方をまとめ、新たな問いへとつなぐ問いの連続での構成が工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (算数) No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
K	<p>○単元の最後に「ふりかえろう」として、これまでに学習したことを統合的・発展的に見直す機会が設けられている。(5年 p.123)</p> <p>○「わくわく算数ひろば」(活用単元)をまとめて学期末に位置付けており、学習内容の定着と全体の時間数の調整が図られている。(5年 p.92)</p>	<p>○演算決定に関わる図として、1年から3年にかけて、具体的な操作を図的に表現していく過程を丁寧に示している。</p> <p>○図(2年上 p.64)→線分図(3年上 p.34)また、第3学年からは乗法・除法の演算決定のときに数量関係に着目できるように関係図を示している。</p> <p>○巻末に教科書と同じ分度器をつけている。(4年上)</p> <p>○折れ線グラフとデータ活用が別単元になっている。</p>	<p>○児童自らが課題意識や見直しをもって学習に取り組めるよう「じゅんぴ」(単元のとびら)として日常生活や既習学習と関連付ける工夫がなされている。(2年上 p.10)</p> <p>○単元終了時の「やってみよう」では、学びがより深まる問題があり、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。(4年上 p.37)</p>	<p>○多面的・多角的に考える資質・能力を育成するため、また、自分の考えや意見を相手見伝え、自分と異なる意見でも尊重できるように「学習の進め方」の「大切なこと」として2年生以上の各教科書に示している。(2年上 p.4~5)</p> <p>○全国学力調査で正答率の低かった問題には★マークを付けて意識して取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○「みらいへのつばさ」ではごみの量を題材にし、社会科と関連付けている。(4年下 p.110)</p> <p>○「どんな計算になるのかな」(3年上 p.92)「さがしてみよう」(1年 p.138)などが設定され、算数と日常生活との関わりを実感しながら学習を進められるよう工夫されている。</p>	<p>○紙面に QR コードから入れることのできるコンテンツがあり、ICT 機器を使った学習のサポートができるようにしている(5年 p.74)</p> <p>○出雲大社や雲州そばなどが掲載されている。</p>	<p>○各学年で「教科書の使い方」「学習の進め方」「わくわく算数学習」「わくわく算数ノート」という学び方の基本形が示され、6年間を通して徹底されている。</p> <p>○3年生以上では数量関係に着目して演算決定ができるように(比例、倍、割合などの単元で)「a の b 倍が c」を表す関係図を数直線に併せ一貫して扱っている。</p>
L	<p>○単元の始めに「次の学習のために」として、これから学習する内容と関係する既習学習の問題のページを設けている。また、どの学年のどの単元で学んだか分かるように示されている。(3年上 p.81 他)</p> <p>○単元の終わりに、「たしかめポイント」として、基礎・基本を定着させるための問題が設けられ、つまずきやすい内容については、「わかっているかな？」で学習の見直しをすすめる「まちがいやすい問題」で学習内容を定着させるようにしている。(5年上 p.50~51)</p>	<p>○1年上では「あさがお」「いちじょうの葉」「まつぼっくり」を、2年上では「ミニトマト」を扱っており、季節や子どもの日常生活での経験とつながりのある素材が扱われている。(1年上 p.71, 1年下 p.5, 9, 2年上 p.78~79)</p> <p>○各巻に「自分でみんな」を設け問題解決の学習過程や多様な考え方を示している。また、巻末に「学び方ガイド」がついており、どの学習場面でも使えるようにしている。</p>	<p>○5年下「正多角形と円」では「六角がえしをつくらう」とし、作る活動をおして面の変化を楽しむ導入となっている。(5年下 p.56)</p> <p>○3年上「かけ算」では、おはじきを使ったゲームをし、その得点を求めることをとおして学ぶよう設定されている。(3年上 p.10)</p> <p>○「なるほど算数」では、昔の長さの単位や、外国の長さの単位を扱ったり、身の回りの比を扱ったりなど、算数とかわりのある様々な題材が紹介されている。(3年上 p.90, 6年 p.121)</p>	<p>○数学的な見方・考え方を働かせて学べるよう、2年以上に折り込みを閉じた状態で「見方・考え方」等がカードにして示されている。児童が考えの見通しを立てるよう工夫されている。(2年下 p.21, 5年上 p.31)</p> <p>○単元内に「どうしてがわかるかな」と書き添えられた練習問題があり、理由や方法などを説明する記述の問題が扱われている。(4年下 p.53, 118)</p>	<p>○「ハロー！算数」では、写真が多く用いられ、実生活とのつながりを分かりやすく表されている。また、学習したことを実生活に活用できるように、手順や準備物が示されている。(2年下 p.59)</p> <p>○4年上「折れ線グラフと表」では、1日の気温の変化が扱われており、理科との関連が図られている。(4年上 p.40)</p>	<p>○「WEB」のマークをつけ、学習内容の参考情報をインターネットから見るようにしている。(6年 p.21)</p> <p>○「算数ノートをつくらう」のページでは、ノートの書き方のモデルが大きく、わかりやすく示されている。(2年上 p.4~5)</p> <p>○4年生以上には「活用」のページが設けられており、複数の単元や領域を結び付けた内容を用いた問題が扱われている。(4年上 p.124~125)</p>	<p>○導入場面では、ページ全体に写真やイラストが用いられており、児童に興味・関心をもてるようにされているとともに、実生活とのつながりを感じられるように工夫されている。(3年下 p.22, 6年 p.126)</p> <p>○巻末に「算数マイトライ」として、児童の実態に応じた問題がまとめられている。中でも「しっかりチェック」は、チェック欄(□)が2つ設けてあり、繰り返し学習できるようにしている。(5年下 p.138~155)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (理科) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○各単元の導入で写真やまんがを使って自然事象への興味・関心を高め、考察場面では理科の見方・考え方を具体的に示し、問題解決力の育成をねらう内容としている。</p> <p>○A4判の紙面サイズによって学習事項に関する情報量と学び方に関する内容の充実が図られている。</p>	<p>○3年「音を出してしらべよう」では、トライアングルを使った実験(3年 p.109～p.114)を取り上げ、「物の重さをくらべよう」では、食塩と砂糖の重さの比較(3年 p.121～p.124)など身近なものを対象として取り上げている。</p> <p>○6年「電気と私たちの暮らし」では、プログラミングに関する内容を、電気の利用を工夫する活動の例として取り上げている。(6年 p.159～p.163)</p>	<p>○各単元の導入で写真やまんがを使って自然事象への興味・関心を高め、考察場面では理科の見方・考え方を具体的に示し、問題解決力の育成をねらう内容としている。</p> <p>○4年「物の体積と温度」では、試験管の口に石鹼水の幕を張って手で温めてみる活動を紹介します。どのような現象がみられるのか興味・関心をもつて取り組むことができるような構成となっている。(4年 p.128～p.129)</p>	<p>○全学年の巻頭に問題解決の過程を示す「理科の学び方」のページがあり、学習過程の手引きとなっている。</p> <p>(3～6学年共通 p.4～5)</p> <p>○4年では、季節ごとの樹木などの様子を比べる資料として、島根県出雲市の風景を掲載している。(4年 p.17, p.75, p.177, p.163)</p>	<p>○全学年の巻末資料「算数科で学んだことを活用しよう」で各学年の内容の要点を掲載して、関連付けて学習できるように工夫している。(3年 p.169, 4年 p.205, 5年 p.173, 6年 p.213)</p> <p>○5年「台風と天気の変化」や6年「変わり続ける大地」では、自然災害の例を写真で示し、自然災害や防災・減災について考えることができるような内容となっている。(5年 p.69～71, 6年 p.122～p.131)</p>	<p>○各学年で育成を目指す問題解決の力に焦点を当てたメッセージ性の高い巻頭見開きページ、巻末の学び方、実験器具の使い方、身に着けた資質・能力、学習内容を振り返るページによって、理科で育成する力を確実に確かむことができるよう工夫されている。</p>	<p>○単元導入の興味・関心を高めるためまんがや写真を多く使った構成や、思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた問題設定場面の構成、理科の見方・考え方や科学的な概念形成を促す囲み枠、問題解決の終末では振り返りの視点を示すなど、問題解決型学習に重点を置いた構成となっている。</p> <p>○昆虫や植物、天体などの鮮明な写真が多く、資料性が高い。</p>
B	<p>○各学年の始めに「理科の学び方」を掲載し、見直しをもって主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>○問題解決に必要な力として、3年「問題を見つけよう」、4年「予想しよう」、5年「計画」、6年「考察」の表記に★印の表記をしている。</p>	<p>○「天気と1日の気温」(4年 p.18)、「天気の変化」(5年 p.6)、「植物の成長と日光」(6年 p.28)など、配当時期が梅雨の時期と重ならないよう単元構成に工夫がみられる。</p> <p>○3年「音のふしぎ」(p.64)では、紙コップやビーズなど身近な物を使って実験ができるよう配慮している。</p>	<p>○巻末に「しぜんのかんさつカード」「シールを使った学習のまとめ」(3年)、「星座シート」(4年)、「災害カード」(5年)、「クイズすごろく」(6年)などがあり、児童に興味・関心をもたせる資料がある。</p>	<p>○考察場面や発表場面などで多様な表現活動を紹介することで表現力を高めるようにしている。(4年 p.162～p.163)</p> <p>○単元の終わりに「たしかめよう」「学んだことを生かそう」があり、その単元の学習内容を振り返り説明させることで、活用する力を高めるようにしている。</p> <p>○「昔からの鉄づくり」として古代出雲歴史博物館の「ふいご」や、安来市の和鋼博物館の「たたら得られた鉄」の資料が紹介されている。</p>	<p>○他教科と関連する資料などには、「○○で学ぶこと」と示し、系統的、発展的な学びができるようになっている。(3年 p.114, 4年 p.12, 28, 5年 p.88, 6年 p.156)</p> <p>○ESDに関連して、6年は学年を通して日常生活との関わりや環境とのかかわりが意識しやすくなっている。(6年 p.6～p.7, p.164～p.165)</p>	<p>○ユニバーサルデザインの観点から、文字の書体をUDフォントを使用したり、単語の途中で改行せず文節で改行して読みやすくしたりしている。(6年 p.19)</p> <p>○その学年で使用する器具の使い方について、巻末にまとめて記載している。また他学年に渡って何度も使用される器具についても、その都度使用方法を記載している。</p>	<p>○単元の導入ページで、児童の身近な生活の写真を見開きで掲載することで、活動を通しての問題を見つけやすくなっている。</p> <p>○地域の特徴や季節など考慮した単元構成が行われている。</p> <p>○児童自ら準備でき、様々な実験の方法が選択できるように内容が工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (理科) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
D	<p>○ページ数は少な目である。 3年 180、4年 204 5年 192、6年 228 ○操作法や調べ方などは巻末にまとめてある。</p>	<p>○単元の配列が1分野、2分野の順になっており、年間指導計画の作り方に気を付ける必要がある。 ○星の学習で四季の星の様子がまとめて出ている。北極星の見つけ方が一番始めに出ている。(4年 p.81~p.85)</p>	<p>○風のはたらきに風車や重りを使い、ゴムのはたらきでは台車を使って分かりやすくしている。(3年 p.108, p.114) ○電磁石のクレーンゲームが児童の興味を引く。(5年 p.123) ○燃焼実験の考え方で、100個の空気の粒として考える方法は児童にあっている。(6年 p.16)</p>	<p>○観察の仕方がわかりやすい。(3年 p.10) ○観察のまとめ方がくわしい。(3年 p.14) ○月の動きと星の動きがまとめてある。(4年 p.95) ○単元がふりこからでやりにくい。(5年) ○花粉の様子がくわしい。(5年 p.69) ○冬から春の天気についてくわしい。(5年 p.139) ○須佐のホルンフェルスの地層写真が掲載されている。(6年 p.134)</p>	<p>○物の重さは算数の学習が終わってからできるようにになっている。(3年 p.156)</p>	<p>○地温の測り方にペットボトルを使うのが工夫されている。(3年 p.36) ○植物の体のつくりで実験液の割合が明記してある。(6年 p.55) ○水の温まり方の実験が分かりにくい。(4年 p.141) ○空気の温まり方のj実験が危ない。(4年 p.173) ○雨水の流れで傾きチェッカーが工夫されている。(4年 p.59) ○植物の光合成実験に小松菜を使うのは良い。(6年 p.74)</p>	<p>○ページ数は少なく、内容がまとめている。 ○操作法、調べ方などは巻末にまとめてあり、応用して使うことができる。 ○実験の方法が工夫されており、授業の準備がしやすい。</p>
F	<p>○本が大型で厚い。 3年 200、4年 240 5年 228、6年 236 ○印字のフォントが見やすい。 ○挿絵の色が落ち着いている。 ○図が明るく、余白があり見やすい。</p>	<p>○単元配列が季節に合っている。 ○実験の仕方がくわしい。 ○実験方法が工夫されている。 ○巻末にリーフレットがついていて、観察などに使える。</p>	<p>○風、ゴムのはたらきを台車でまとめている。(3年) ○星座早見が巻末についている。(4年) ○人体の等身大図がついていて、自分の体を想像しやすい。(6年 p.50) ○糸電話の実験の仕方がいい。(3年 p.139) ○巻末の観察シートが役立つ。(3年)</p>	<p>○発芽実験で条件統一について詳しく、実験方法が書かれている。(5年 p.26) ○電磁石は実験方法が詳しいが、自分で考えるには詳しすぎる。(5年) ○顕微鏡の倍率がわかりやすい。(6年 p.94) ○2須佐のホルンフェルスの地層写真が出ている。(6年 p.122)</p>	<p>○気温折れ線グラフの書き方や読み取り方が詳しい。 (算数で未履修 4年 p.33) ○振り子の実験の仕方で平均の取り方が詳しい。(算数、5年 p.102) ○川から流れる水の写真がわかりやすい。 (災害、6年 p.130)</p>	<p>○人体骨の模型が必要。(4年 p.41) ○単元名が電流となっているのは科学的。(電気という言葉は4年にふさわしくない。)(4年 p.50) ○流れる水の働きプリンカップの実験は失敗が少ない。(5年 p.129)</p>	<p>○1つ1つの実験や考察の行程が細かく、くわしくなっており、実験や観察の仕方などが身に付くと考えられる。 ○写真等が多いがその分、本が大型で重い。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (理科) No. (3)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
K	<p>○各学年の始めに「自然の不思議をとき明かそう」とし学習の進め方を示してある。また①見つける②調べる③ふり返ると問題解決学習の過程が示されている</p>	<p>○気温が低いと実験の成功率が下がる単元(6年 p.92)は、夏休み後に配当したり、「地面を流れる水のゆくえ」(4年 p.26)は、雨の多い時期に配当したりするなど年間計画に工夫がみられる。</p> <p>○「ヒトや動物の体」で、ヒト(大人)の消化管の模型を12人の児童が持っている写真や、ウシの腸の長さを25メートルプールで表すなど、児童がイメージしやすい配慮が見られる。(6年 p.44)</p>	<p>○巻末に「シート&シート」を使ってのプログラミング学習や「月の満ち欠けモデル」(6年)や「雲の観察カード」(5年)、「植物たんけんカード」(3年)などがあり、児童の興味や関心を引く資料がある。</p> <p>○巻末には、次の学年で扱う実験や観察の場面を写真で紹介し、理科の学習への興味を広げている。</p>	<p>○問題解決の流れが一目で分かるよう、問題解決のステップを囲みで示したり、矢印ラインで1本につないだりすることで、主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「器具の使い方」や、学習の参考になる情報には二次元コードが示されており、動画やチェックシートで確認できるよう配慮されている。</p> <p>○「理科の考え方をはたらかせよう」では、ノーベル賞受賞者をはじめ各学年にふさわしい科学者を紹介している。</p>	<p>○各学年とも、他教科と関連した内容には教科名と学習内容を示している。(3年 p.14, 4年 p.20, 5年 p.44, 6年 p.12等)</p> <p>○巻末「算数のまど」に、各学年の内容に関連した算数科の内容をまとめ、確認しやすい。(5年 p.180, 181等)</p> <p>○各学年とも、単元末に「まとめノート」があり、学習を振り返り、ノートにまとめる際の見本となっている。(3年 p.33, 4年 p.41, 5年 p.25, 6年 p.19等)</p>	<p>○児童への負担を減らすため、教科書の軽量化を行っている。</p> <p>○リトマス紙の色名を記載したり、文字や引き出し線への白い縁取り(6年 p.100)を行ったりするなど、色覚特性を含めた、全ての人が見やすく、読みやすくデザインされている。</p>	<p>○施設やデジタルの活用、表現の仕方、器具の使い方など、理科に必要な技能を分かりやすく整理して示されている。</p> <p>○他教科との関連が丁寧に取り上げられており、学んだことを活用できるようにになっている。</p> <p>○各学年の目次ページに季節ごよみを掲載したり、単元導入から単元末まで見通しをもって児童自ら学習できるよう、実験・観察などの過程を具体的に示したりすることで、主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されている。</p>
H	見本本の送付がありませんでした。						

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (生活) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○どの単元でも表現活動の場面がイラストと吹き出しで掲載されており、1年生の児童にとってわかりやすく見通しをもって学習できるよう工夫されている。(上 p. 20, 21)</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と学習活動との関連を保護者向けに示し、幼児教育からの円滑な接続ができるよう工夫されている。(上 p. 1-1)</p>	<p>○「ぐんぐんそだてわたしの野さい」は、「花のせわと同じでいいのかな。」と問いかけるなど、1年生での栽培活動の経験が生かされるよう単元が構成されている。(下 p. 12)</p> <p>○町探検が2回設定されており、調べる、まとめるなどの活動を繰り返すことにより気付きの質を高め、学習を深めることができるよう構成されている。(下 p. 24, 64, 72)</p>	<p>○大判にすることで、掲載されている一つ一つの画像も大きくはっきりとしており、昆虫の体など細部まで見ることができるよう配慮されている。(上 p. 57)</p> <p>○「いきもの図かん」には、生き物の飼育方法だけでなく、成長の様子も掲載されており、児童が関心を持って飼育を続けられるよう工夫されている。(下 p. 40, 41)</p>	<p>○「いきものとなかよし」では主に昆虫を取り上げ、小動物に関しては発展的な課題として紹介しており、小動物を飼育することが難しい状況への配慮がされている。(上 p. 57～p. 65)</p> <p>○公共施設について学習する単元が町探検とは別に設定されており、校区に見学に適した公共施設がない学校への配慮がされている。(下 p. 59～p. 65)</p>	<p>○「かんさつずかん」には、観察カードのかき方や観察の仕方のポイントが示してあり、理科との関連が図られている。(上 p. 34, 35)</p> <p>○下巻の右ページ上に、他教科で身に付けた資質・能力を生かす場面が例示されており、効果的に使って活動ができるよう工夫されている。(下 p. 30, 53)</p>	<p>○巻末の「かつどうべんりてちょう」は、習慣や観察の仕方のポイントが示してあり、理科との関連が図られている。(上 p. 115～122, 下 p. 107～128)</p> <p>○巻末のポケットずかんはとりはずして持ち歩けるようになっており、教室外での学習に携帯できるよう工夫されている。(上 p. 124～p. 131)</p>	<p>○大判の教科書で1ページあたりの情報や資料が多く、子どもの思考の流れに沿った学びのプロセスを掲載し、見通しをもって授業づくりが行えるように工夫されている。</p> <p>○育成を目指す資質・能力が吹き出しとイラストで具体的に示されており、「何ができるようになるか」がイメージできるよう配慮されている。(上 p. 18, 19)</p>
B	<p>○「しろうがっこうせいかつはじまるよ」では、15分ごとの活動時間の目安が示され、発達の段階に合わせて無理のない活動ができるよう工夫されている。(上 p. 4, 5)</p> <p>○見開きごとに活動内容を風船マーク内に端的に表し、活動の見通しがもてるよう配慮されている。(上 p. 4)</p>	<p>○上巻は、季節に沿った大単元構成になっており、季節と活動、児童の実生活が一体化するよう工夫されている。</p> <p>○単元の始めに単元のゴールの子どもの様子を表す写真を載せ、子どもたちの活動意欲が高まるよう工夫されている。(下 p. 18, 19)</p>	<p>○下巻「花やさいの大きくなるひみつはつけん」では、色鮮やかな野菜料理の写真が掲載されており、野菜の栽培意欲が高まるよう工夫されている。(下 p. 18)</p> <p>○モノクロの写真とカラーの写真が効果的に使われており、児童が自然の色の美しさに感動するよう工夫されている。(上 p. 62～p. 65)</p>	<p>○「わたしの町はつけん」では、地域の方に向けて発表をする活動が紹介され、地域の実態に合わせた表現活動ができるよう工夫されている。(下 p. 69)</p> <p>○上巻の栽培活動に、花だけでなくサツマイモやダイズなどの野菜も取り上げてあり、地域の方との交流をしながら学習が進められるよう配慮されている。(上 p. 19)</p>	<p>○ページの右端に、「せいかつのことば」の欄があり、語彙に関心をもち日常生活でも使える言葉が増えるよう工夫されている。(上 p. 23)</p> <p>○「なつとなかよし」では、夏休みの過ごし方について、祭りなど地域の伝統行事に参加したり、暑中見舞いや絵日記など表現活動をしたりすることを促している。(上 p. 42, 43)</p>	<p>○「がくしゅうどうぐばこ」では、夜の長さを図示し、生活と時間の関連が意識できるよう工夫されていたり、収穫した野菜の調理方法が掲載されていたりと、児童の生活全般を通して活用できるようになっている。(上 p. 104～p. 129, 下 p. 106～p. 137)</p>	<p>○季節ごとに地域の行事を取り上げたり、地域と方との活動が紹介されたりするなど、「社会に開かれた教育課程」を意識した内容となっている。(下 p. 43, 61)</p> <p>○他教科との関連を意識し、特に合科的・関連的指導が効果的と思われる場面にはわかりやすいマークがあるなど工夫されている。(上 p. 5)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (生活) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
D	<p>○「がっこうだいすき」では、学校生活における基本的な生活習慣がイラストで示され、安心して学校生活をスタートすることができるよう配慮されている。</p> <p>○単元全体を大きく4つの段階に分け、見開きページの左上に示すことで、そのページが単元のどの段階に位置するかひと目で分かるよう工夫されている。(上 p.2)</p>	<p>○下巻「まちたんけん」「あの人に会いたい」では、発見したことをさらに深く調べ、学びが深まるよう工夫されている。(下 p.8,9,16,17)</p> <p>○生活科の内容を「探検単元」「遊び単元」「栽培単元」「飼育単元」「成長単元」の5つの大単元で構成し、それぞれの単元で1年生から2年生で広がりや深まりのあるものに変化するよう構成されている。</p>	<p>○「わたしたちの野さいばたけ」のように単元の始めページに単元の終わりの児童の生き生きとした表情の姿の写真を載せ、児童の興味・関心を喚起するよう工夫されている。(下 p.36,37)</p> <p>○学習カードの自己評価欄や巻末の「まなびかたずかん」のチェック欄など、自分自身の成長に気付くことができるよう配慮されている。(上 p.12,115)</p>	<p>○「あの人に会いたい」では、地域の方を招いて調べたことを発表する活動をし、各校の実態に合わせることができるよう工夫されている。(下 p.22,23)</p> <p>○「まちたんけん」では、公共交通機関内の優先席の表示、バスのステップ、点字ブロックなどを取り上げ、障がいのある人や高齢者など多様な人々との関わりが捉えられるよう配慮されている。(下 p.11,14,15)</p>	<p>○「わたしたんけん」では、原稿用紙を用いた作文が紹介され、国語での学習事項と関連が図られている。(下 p.100,101)</p> <p>○「まちたんけん」では、低学年の児童が理解しやすい分量の絵地図が示してあり、社会科での地図学習へ段階的に移行できるよう配慮されている。(下 p.6)</p>	<p>○ワークシート例に、児童の記録だけでなく教師の朱書きも入れることで、児童の取り組みをどのように認めたり、深めたりしていくかの参考となるよう配慮されている。(上 p.24,25)</p> <p>○イラストや文字の説明だけでは児童に伝わりにくいと思われる内容にはQRコードが掲載されており、動画で確認できるよう配慮されている。(上 p.21)</p>	<p>○巻末に自己評価チェック欄を載せ、自分の成長を自覚することができるよう工夫されている。(上 p.115,下 p.104)</p> <p>○発達の段階に配慮した様々なワークシートが例示されており、それらを参考にしながら気付きや思いを書き込むことができるよう工夫されている。(上 p.34,35)</p>
F	<p>○「きょうから1ねんせい」では、各ページに幼児期の姿のイラストを載せ、児童がこれまでの経験を想起して新生活をスタートすることができるよう工夫されている。(上 p.8~13)</p> <p>○上巻下巻とも各単元に振り返りの時間「なにをかんだかな」が設定され、児童の気付きが活動内容に合わせて表現できるよう多様な表現活動が例示されている。(上 p.20,21)</p>	<p>○生活科の教科目標を6つの力として整理し、見開きのページごとに特に発揮すると効果的な力をサイコロで示している。(上 p.16)</p> <p>○「きせつとなかよしはるなつ」では、「春」「夏」と季節を限定しないことで、地域やその年の気候に合わせた校外での活動が設定できるよう配慮されている。(上 p.46p~p.59)</p>	<p>○キャラクター「いぐら」や「花ちゃん」「大地くん」を設け、児童と同じ目線で一緒に学習できるよう設定されている。(上 p.38,39)</p> <p>○生き物や木の実のクイズを載せることで、児童が興味をもって調べられる活動ができるよう工夫されている。(上 p.53,76,77)</p>	<p>○「えがおひみつたんけんたい」では、商店や公共施設で仕事をする人にインタビューする活動が位置付けられ、地域の実態に合わせて活動できるよう工夫されている。(下 p.60~69)</p> <p>○「ひと」コラムで、五感をつかう、比べる、たとえる、試す、予想する、工夫するなどの学習活動が繰り返し提示されており、児童が繰り返し使うことで身に付くよう工夫されている。(上 p.49)</p>	<p>○単元のとびらに巻末の「学びのポケット」のインデックスをつけ、他教科の知識・技能を活用できるよう配慮されている。(上 p.127~136,下 p.117~136)</p> <p>○「理科へのまど」「社会科へのまど」では、生活科での学びが中学年以上以降もつながることがイメージできるよう工夫されている。(下 p.11,29)</p>	<p>○教科書の中に書き込むことができる欄があり、キャラクターと一緒に考えたことを書くことができるよう工夫されている。(上 p.21)</p>	<p>○振り返りを見開きで設定し、多様な表現方法で振り返りを行うことで、気付きが深まるよう工夫されている。(上 p.20,21)</p> <p>○「学びのポケット」では、各教科との関連を明確にし、教科等横断的な指導ができるよう工夫されている。(上 p.127~p.136,下 p.117~p.136)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (生活) No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
I	<p>○「あたらしいいちねんせい」では、複数の写真に短い児童のつぶやきが添えられた絵本のよう構成になっており、入学直後の活動内容や流れを具体的にイメージできるよう工夫されている。(上 p. 4～13)</p>	<p>○全単元に「どうすれば」コーナーが設けられており、児童自ら考える力を育てられるように工夫されている。(上 p. 20)</p> <p>○上巻では、四季をとおして同じ画面構成で示されており、季節を比較されており、季節を比較しながら多様な気付きや発見の喜びが感じられるよう工夫されている。(上 p. 46～47, 74～75, 100～101)</p>	<p>○巻末資料「ひろがるせいかつじてん」では、気付きのポイントや観察の視点、表現方法が紹介されており、意欲的に表現し、考えることができるように工夫されている。(下 p. 102～103)</p> <p>○「あそんでためてくふうして」では、試行錯誤している場面が写真や吹き出しで紹介されており、自ら考え活動する楽しさや大切さが伝わるように工夫されている。(下 p. 48～63)</p>	<p>○上巻「なつのたのしみ」「ふゆのたのしみ」や下巻「きせつのおくりもの」では、各地域の伝統行事などが示され、児童が身近な伝統文化に目を向けるきっかけとなるよう配慮されている。(上 p. 60～61)</p> <p>(下 p. 78～85)</p>	<p>○「さかせたいなわたしのはな」では、花の数をグラフに表したり、種を10個ずつまとめて数えたりして算数科の知識・技能を活用できるよう配慮されている。(上 p. 39, 41)</p> <p>○社会や理科、総合的な学習の時間など中学年以降の学習に結び付けていけるような活動が示されている。(下 p. 86～p95)</p>	<p>○巻末資料「ひろがるせいかつじてん」では、災害に関する注意点や防災に関する事項、道具を使用する際の注意点がまとめてあり、いつでも確認できるよう配慮されている。(下 p. 98～p. 99)</p>	<p>○単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で構成されており、学習の流れやねらいが示されている。</p> <p>○巻末には、各単元のジャンプシールをまとめて貼り直し1年間の学びを視覚化し、成長を実感できるよう工夫されている。</p>
K	<p>○「がっこうだいすきあいうえお」では、幼児期に親しんだ遊びや活動、合科的関連的な学習活動例の写真が充実しており、各教科等における学習にスムーズに移行できるよう配慮されている。(上 p. 1～16)</p> <p>○親しみやすいキャラクターが活動や気付きを促したり、疑問を投げかけたりして学習を深められるよう配慮されている。</p>	<p>○町探検では、絵地図が繰り返し使用され、発見や気付きが増え、学びが深まる実感が得られるよう工夫されている。(下 p. 30, 36, 76, 82)</p> <p>○導入、主な活動、表現できるよう単元の流れを「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」で明確化され、学びのプロセスが分かりやすく示されている。</p>	<p>○紙面右下にめくり言葉が設定され、児童の思いや願いが次の活動につながるよう配慮されている。(上 p. 7)</p> <p>○単元の導入には「わくわくボックス」が配置され、「～したい」という児童の思いや願いが高まるよう工夫されている。(上 p. 22～23)</p>	<p>○「大きくそだてわたしの野さい」では、学習対象が多様に紹介され、その中から学校や児童の実態に合わせて選択できるように工夫されている。(下 p. 14～25)</p>	<p>○町探検では、気付いたことをもとに考えたり、協働して多様な学習活動を行ったりすることで、「総合的な学習の時間」につながるよう工夫されている。(下 p. 90)</p> <p>○上下巻「きせつだより」が設けられ、学校外でも児童が力をつけていけるよう工夫されている。(上 p. 56, 57)</p> <p>(下 p. 10～11)</p>	<p>○単元末の「できるかなできたかな？」コーナーは、児童が活動を振り返る自己評価の視点として活用できるよう工夫されている。(上 p. 17)</p>	<p>○生活科の学びのプロセスを考慮し「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階構成で単元の流れが示されている。</p> <p>○「すたあとぶっく」「ステップブック」が掲載され、学びの入り口と出口が分かりやすい構成となるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (生活) No. (3)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
L	<p>○「いちねんせいになったら」では、「幼児期までに育てほしい 10 の姿」に対応した構成になっており、安心して学校生活をスタートできるよう配慮されている。 (上 p. 4~17)</p> <p>○タイトル、側欄、学習カードなどが定位置に置かれ、「何をしたいのか」が明確な写真やイラストで表され、見通しをもって学習できるように工夫されている。</p>	<p>○関連ページへリンクできるようなマークが記されており、活動を広げることができるよう工夫されている。 (上 p. 21)</p> <p>○育成すべき資質・能力の 3 つの柱に基づいた「学習のめあて」が小單元ごとに具体で示されており、児童が「何をどう学ぶのか」がひと目でわかるよう工夫されている。 (上 p. 40)</p>	<p>○「きれいなはなをさかせたい」では、「やまおり」することで、植物の成長過程が一覧できるよう工夫されている。 (上 p. 37~44)</p> <p>○「町たんけん 1」では、板書や学習カード、話し合いの場面が具体的に示されており、学びが深まるように工夫されている。 (下 p. 18~19)</p>	<p>○「町たんけん 2」では、デイサービスセンターへの訪問や高齢者とのふれあいが紹介される等、地域とのつながりや継続的な関わりが丁寧に扱われている。 (下 p. 62~79)</p>	<p>○「いろいろな町のくふう」では、点字が紹介されており、環境や福祉に目を向けることができるように工夫されている。 (下 p. 71)</p> <p>○写真、イラスト、吹き出しなどが、「考えるための技法」の活用と関連付けられており、繰り返し活用することで、自ずと他教科や 3 年生以降の学習活動で生かせる力が身に付くように工夫されている。</p>	<p>○巻末に「学び方」「しぜん・生活」の 2 つの図鑑からなる「ちえとわざのたからばこ」が収録されており、3 つの柱の 1 つ「知識及び技能の基礎」を網羅することができるよう工夫されている。</p>	<p>○ページ左下に「学習のめあて」が示され、見通しをもって学習することができるように工夫されている。</p> <p>○上下巻末に、必要な知識及び技能、習慣が身に付く図鑑・資料として「ちえとわざのたからばこ」が掲載されている。</p>
H	見本本の送付がありませんでした。						

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (音楽) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
F	<p>○各学校や児童の実態に応じて、基礎・基本を確実に身に付ける主要部分の教材と「音楽ランド」に取り上げた選択部分の教材を組み合わせることにより、無理なく学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○見開きごとに学習のねらいと学び方を示唆する「まなびナビ」が示され、児童が見通しをもって学習を進めることができるよう配慮されている。(1年 p. 16, 5年 p. 22 他)</p>	<p>○見開きごとに教材や活動に関連する「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」と示したり、新出事項を右端にまとめて示したりして、児童がその働きを意識しながら学ぶことができるよう配慮されている。(4年 p. 12・13)</p> <p>○音楽づくりの活動について、系統性と発達段階に配慮した学習活動が配置され、丁寧なステップアップをねらうとともに、表現の他分野や鑑賞領域の学習にもつながるよう工夫されている。(3年 p. 23→p. 50→4年 p. 22・23)</p>	<p>○学習のめあてや教材曲、学習活動に即した児童への助言や説明が分かりやすく示されるとともに、写真やイラスト、図等も学習内容に応じて、児童の興味・関心を引き出すようなものが用意されている。(2年 p. 16, 4年 p. 26 他, 3年 p. 40→43, 6年 p. 8～11 他)</p> <p>○アニメや映画のテーマ曲等、児童に親しみやすい楽曲が掲載され、表現への意欲が高まるよう工夫されている。(5年 p. 52・53, 4年 p. 27)</p>	<p>○巻末には、全学年共通で取り組むことができる教材が、学年に応じた編曲により掲載されており、全校で合唱や合奏などを楽しむことができるよう工夫されている。(6年 p. 69～71)</p> <p>○高学年で、発展的な合奏曲が掲載されており、思いや意図をもってアンサンブルができるよう工夫されている。(6年 p. 32・33)</p>	<p>○「音楽ランド」の中に「Short Time Learning」が設けられ、既習曲の英語歌詞や英語の歌等が掲載されており、教科横断的な扱いができるよう配慮されている。(1年 p. 60, 2年 p. 60・61, 3年～5年 p. 62, 6年 p. 50)</p> <p>○演奏家や狂言師からのメッセージが掲載されており、生活の中で音楽に親しんだり楽しんだりする心情を育むことができるよう配慮されている。(4・5・6年巻頭)</p>	<p>○「音楽を表すいろいろな言葉」が巻末に掲載されており、音楽を言葉で表し、伝えるための手助けとなるよう配慮されている。(2年 p. 73, 3年以上 p. 76)</p> <p>○3年以上は巻末折込にリコーダーの運指図が掲載され、児童自身が随所で確かめながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。(3年以上 p. 77)</p>	<p>○我が国及び諸外国の音楽から、様々な時代や曲種のものにふれ、音楽のもつ多様なよさや面白さが感じ取れるような教材が選定され、児童が興味・関心をもちながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○系統的・段階的に少しずつステップアップしていくような教材配列と扱い方、「まなびナビ」の設定、理解を深めるための透明シートや巻末資料等、児童一人一人がその能力を伸ばし、見通しをもって学習が進められるような工夫がなされている。</p>
G	<p>○題材自体、且つ一題材に対する教材が精選されており、選択部分「みんなで楽しく」の教材を弾力的に扱いながら、6年間の学びがつながるよう、段階的、系統的に学習が進められる構成になっている。</p> <p>○子どもやキャラクターの吹き出しを充実させて、児童の学習をサポートしたり活動を深めたり広げたりする工夫がなされ、児童が主体的に、また児童同士が対話的で協働的な学習が進められるよう配慮されている。(2年 p. 46・47, 3年 p. 57, 5年 p. 17)</p>	<p>○題材ごとに、音楽をつくっている要素〔共通事項〕を中心に、音楽づくり・歌唱・器楽・鑑賞の学習が結び付けられて教材が選択されており、学んだことを関連付けたり活用したりすることができるよう工夫されている。(4年 p. 48～55)</p> <p>○各ページでは、学習のねらいや活動の手立てを分かりやすく示すとともに、歌詞の内容や自分の思いをきちんと伝えるための声の出し方や発音のしかたに関するものなど、技能をサポートするコラムなども各学年配置されている。(1年 p. 19, 5年 p. 38 他)</p>	<p>○身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習と関連付ける活動を取ったり、音や音楽にまつわる内容のコラムを設けたりして子どもたちが音や音楽に対してもった興味・関心と音楽科の学習がつながるよう工夫されている。(1年 p. 30・31, 2年 p. 28, 5年 p. 45)</p> <p>○手拍子で演奏することができるものや鑑賞教材とリンクさせたものなど児童の意欲を引き出す合奏教材や、児童が音楽文化の多様性を理解することができるような鑑賞教材を取り上げている。(5年 p. 74～77, 4年 p. 56～59, 6年 p. 50・51)</p>	<p>○郷土の祭りや芸能を紹介する際には、石見神楽を取り上げたり、子どもたちが参加している写真を掲載したりして、親しみをもちながら我が国や郷土の音楽文化を受け継ごうとする気持ちを養えるよう工夫されている。(4年 p. 28・29)</p> <p>○掲示物や鑑賞学習、常時活動など指導の手立てとなるアイデアが多数掲載されている。(3年 p. 40・41, 5年 p. 46, 3年 p. 7, 2年 p. 15, 4年 p. 17)</p>	<p>○「ちいきにつたわる音楽をしらべよう」では、総合的な学習の時間との関連が図りやすいように調べる際の観点や方法を示したり、英語歌詞の歌や国語科で取り扱われる教材の関連した楽曲等を掲載したりして、教科横断的な学習ができるよう工夫されている。(4年 p. 28・29, 3年 p. 77, 4年 p. 70・71)</p> <p>○音や音楽が果たす役割について考えるきっかけとなる写真やコラムを掲載し、児童に音楽と生活や社会のかかわりを考える力が育つよう工夫されている。(5・6年巻頭, 5年 p. 22・23, 6年 p. 47・74・75)</p>	<p>○各学年、巻頭に「何を学ぶのか」一年間の見通しがもてるように提示したり、巻末には「振り返りのページ」を設けて学習したことを確認できるようにしたりして、児童の主体的な学びをサポートする工夫がなされている。</p> <p>○様々な状態にある児童が等しく学習を進めることができるように編集や紙面づくりに様々な配慮がなされている。(写真と重なる楽譜は背景を白に…6年 p. 12・13, 判別がしやすい形や色、境界線など(2年 p. 12・13, 3年 p. 27)</p>	<p>○授業で学んだ音楽により、子どもと生活と社会がつながるように、また、我が国や郷土に伝わる音楽文化を未来へ受け継いでいけるように、児童の興味・関心を引き出すような写真、イラスト、コラムなどにより音楽との出会い方に工夫がなされている。</p> <p>○段階的、系統的な題材構成、教材選択がなされているとともに、分りやすくねらいや〔共通事項〕が示されたり、児童の思いと技能をつなぐための細かなステップも示されたりしており、児童が主体的に協働的な学習を進めることができるよう、配慮がなされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (図画工作) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
C	<p>○写真や言葉の数がしぼってあり、適度な情報量で見やすい工夫がされている。 (1・2年上 p.8, 9, 26, 27)</p> <p>○風景画『わたしのお気に入りの場所』の教材では、構図を意識させる写真や、写実的な塗り方だけでなく「気持ちがあつたわる描き方」が分かる絵の写真が示されている。 (5・6年, p.8・9)</p> <p>○粘土の題材は各学年の実態に応じた適切な提示がしてある。 (全学年)</p>	<p>○初めて使う水彩絵の具の題材として、自由な線を描くことを取り上げている。 (1・2年上 p. 20, 21)</p> <p>○同じ教材を平面から立体へと変化をつけて構成してあり、学びが深まるように配慮されている。 (1・2年上 p. 30, 31, 42, 43)</p> <p>○「外国の友だちの絵」や歴史的に価値のある文化財など、児童に触れさせたい写真資料が各教材に関連してほどよく示されている。 (5・6年下)</p>	<p>○『墨から生まれる世界』教材は水墨画を自由に楽しむ構成となっており、益田にゆかりのある雪舟にもつながる教材である。 (5・6年下 p. 34, 35)</p> <p>○身近にあるものを教材としていて、身近なものから美しさを発見できるように工夫されている。 (1・2年上 p. 12, 13, 38, 39)</p> <p>○板材から生活に役立つ入れ物を作る教材では、使う場面を考えながら構想を練り、実際に使うことが出来るため、実生活に生かすことができる。 (5・6年下 p. 40, 41)</p>	<p>○巻末にいろいろな技法や材料が載っており、参考にしやすく、図画工作科においても新しき知識を得ることや系統性を大切にすることが意識しやすい。 (全学年)</p> <p>○各単元に『めあて』や『ふりかえり』が示されており、書かれ方が児童にも教師にも分かりやすい。また、使う道具が名前と合わせてアイコンとして示されている。教科書が学習に活用しやすい構成になっている。</p>	<p>○どの題材も身近にある材料を使い、限定された技法に絞って紹介されているため参考にしやすい。 (1・2年上)</p> <p>○どの題材でも材料だけでなく、友達ともかかわることで発見や工夫ができるように配慮されている。 (1・2年上)</p> <p>○どの学年でも造形遊びをベースとしており、写実的に描いたり、器用に作ったりすることだけを目標にせず、造形的要素を五感を使って学べるような工夫がしてある。 (全学年)</p>		
L	<p>○1・3年下の紙版画の教材は3種類の版画が紹介されている。いろいろな種類があることに触れることはできるが、児童がイメージを広げるためには掲載作品数が少ない。</p>	<p>○1・2年下 p.18-19『しんぶんしとなかよし』では、造形遊びの様子がアップと引きの両方に写真で示されているため、C社の同等教材のページと比較して児童がイメージを広げやすい。</p> <p>○素材で遊んでみたり、触ってみたりして発見する題材は多いが、対象をじっくりと見て色や形に気づいたりする題材は少ない中、身近な自然や物を見ることで発見する題材を扱って児童が日常生活を新たな視点で見ることきっかけづくりになっている。 (3・4年上 p. 18, 19, 22, 23)</p>	<p>○最初の見開きに身近ないろいろな形、色のものをたくさん並べてあり、日常を新しい視点で見ることが出来る工夫がされている。 (1・2年上 p. 5, 6)</p> <p>○日常の中で写真を撮るということが身近である中、写真と周りの環境を組み合わせるという題材は、児童の興味関心をひくものである。 (3・4年上 p. 30, 31)</p> <p>○釘を打ってみたいという児童の思いに沿った題材である。打っているうちにいろいろな物がひらめくという造形遊びのよさが表れている。 (3・4年上 p. 32, 33)</p>	<p>○巻頭ページには、日本の文化である「盆栽」や日本の作家の作品などが掲載されており、地元にある美術館で本物の作品に触れることができるものもあり、美術作品を身近に親しめるような工夫がされている。 (5・6年上 p. 3, 4)</p> <p>○水墨画を濃い墨・薄墨を意識して学習する題材があり、益田にゆかりのある雪舟にもつながる教材である。 (5・6年下 p.10, 11) また、p.56, 57には関連した道形遊びのよさが表れている。 (5・6年下 p.38, 39)</p>	<p>○身近にあるものを教材としている上、同じ種類のもを何個もそろえるのではなく、いろいろな組み合わせを考える題材となっていて、より実生活に近い題材である。 (1・2年上 p. 48, 49)</p> <p>○鑑賞教材『わたしの感じる和』は、日本に昔から受け継がれてきたものに描かれている形や色、イメージに触れる構成になっている。美術作品が生活を楽しく豊かにしていることが押さえられる内容となっている。 (5・6年下 p.38, 39)</p>	<p>○児童の写真にはいろいろなルーツをもつ児童を載せていて、多様な性のある社会を反映させている。 (1・2年上 p. 16)</p> <p>○土で描くという題材は、描くだけでなく触感や質感までも体感できる題材であり児童の五感を豊かにする工夫がされている。 (3・4年上 p. 48, 49)</p>	<p>○「さわる」「ならべる」「つなげる」「くみあわせる」「わける」「見る」など学年の発達段階に応じたキーワードで日常生活の中の造形要素に目を向ける工夫がなされている。 (全学年 p. 34, 35)</p> <p>○全体を通して、立体と絵、造形遊びや鑑賞などの教材のバランスがよい。</p> <p>○中学校に向けて、抽象的なテーマや心の中を表現するような題材も取り入れられており、児童の視点を広げている。 (5・6年上 p. 40, 41, 48, 49)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (家庭) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○調理途中の様子が細かく写真に表されていたり、材料の大きさの目安が実寸大で表されていたりするなど、まだ実体験が乏しい児童において作り方が理解しやすいように工夫されている。(p.20,21,83)</p> <p>○巻末には、衣と食の基礎基本の内容が実寸大でまとめられてあり、児童が興味を持って学習に取り組めると共に、必要な技能が身につけられるように工夫されている。(p130~139)</p>	<p>○「家族・家庭生活」において、基礎基本となるものを学んだ上で「家族の団らん」を、設定し、家族の一員としての協力の大切や家族への感謝の思いを持たせやすくするなど、題材同士の構成の仕方が工夫されている。(p.58~61)</p> <p>○学習後に「できたかな」をチェックすることで、その題材において身につけておくべき内容を児童が意識し、自分自身で振り返りができるよう工夫されている。</p>	<p>○ページの位置にはキーワードとなる絵と共に、言葉が英語と日本語で示されており、児童が興味関心を持って学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○一緒に学ぶキャラクターは、児童にとって親しみやすいものになっている。また、キャラクターの吹き出しは、家庭科の見方、考え方を促したり、学習したことを基にさらに関心を広げたりすることができるよう工夫されている。(p.19,29,43)</p>	<p>○家庭科の見方、考え方を「家庭科の窓」として設定し、自分の生活から課題を見つけ、解決できる力を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○「プロに聞く」や「日本の伝統」のコーナーを設けることで、より広い視野での見方や考え方ができるように工夫されている。(p.22,48,91)</p>	<p>○カリキュラム・マネジメントを基盤とし、他教科と深く関わっている題材について明記してあり、児童の学習への関心が広がるよう工夫されている。(p.56,87)</p> <p>○各題材の終末に「深めよう」があり、発展的な学習へとつながる工夫がされている。(p.38,85,94)</p>	<p>○写真のカラーは落ち着いた色合いであり、過度な刺激がなく、児童にとって見やすい工夫がされている。</p> <p>○実習において、児童がなかなか理解しにくい場面では、デジタルコンテンツが設定してあり、児童にとっても教師にとっても学習が進めやすい工夫がされている。</p>	<p>○「生活変えるチャンス」というページを設け、家族や地域の人と関わりながら学習したことを生活に生かす方法について学ぶことができる。課題設定の仕方から評価・改善の仕方まで手順を示し、実践がしやすいよう工夫されている。</p> <p>○どの題材においても、学習の流れがステップ1~3で示されており、見直しを持って学習をすることができる。ステップ3では、具体的な例が豊富に示され、家庭生活に生かしやすいようになっている。</p>
C	<p>○家庭科学習スタートの調理実習では、沸騰の様子や火加減など、細かなステップを踏んで繰り返し学習することで、基礎・基本の定着を図る工夫がなされている。(p.10~16)</p> <p>○実習例や制作例は豊富に掲載されており、技能レベルを★の数で表すことで難易度がわかり、児童の実態に合わせて取り組めるように工夫されている。(p.44.46.115)</p>	<p>○すべての題材の始めに「学習のめあて」を示すことで、学習の見通しをもち、どんな力をつけるとよいかのわかるように工夫されている。(p.10,20,28)</p> <p>○調理実習や制作の後には「できたかな」で基礎・基本を振り返り、さらに、学習の終わりは「ふりかえろう」「生活に生かそう」により、自己評価したり生活に生かすことを喚起したりできるよう工夫されている。(p.114,15,19)</p>	<p>○題材の導入は、必ず写真やイラストを配置しフォトランゲージの手法を用い、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。(p.28,34)</p> <p>○家庭科の内容と関連した職業についているプロの、考え方や活動を示すことで、さらに広く深く調べるきっかけや、将来につながるキャリアの紹介にもなっている。(p.43)</p>	<p>○家庭科の見方・考え方の視点を四つ葉で示したり、実践する際に大事な視点を示したりして、家庭科の学習のねらいを念頭に置いた活動になるよう工夫されている。(p.31,39)</p> <p>○今回新しく取り入れられた「生活の課題と実践」は、学習過程に沿って丁寧に説明してあり、課題解決的な学びにつなげられるように工夫されている。(p.76~79)</p>	<p>○「チャレンジコーナー」では具体的な例を学期のまとめりに示し、長期休業などに家庭で実践ができるように工夫されている。</p> <p>○家庭科の学習とつながりがある内容については、学年と教科・単元名が示してあり、見直しや関連付けができるように工夫されている。(p.9,21)</p>	<p>○各ページの下部にある「一口メモ」には、そのページに出てきた難しい言葉の意味や情報などを載せ、家庭科に関する豊かな知識にふれ、興味を持てるように配慮されている。</p> <p>○二次元コードを読み取ることで、写真だけではわかりにくい制作の仕方実験動画などを見て、確認することができるように配慮されている。(p.23)</p>	<p>○ユニバーサルデザインを意識し、見開きページに左から右の並びになるように写真や図を配列し、分かりにくいところはさらにイラストで細かく示している。また、読みやすい文章になるように、単語が行をまたがないように配慮されている。</p> <p>○各題材の3つの学習のめあては、それぞれ学習指導要領の指導項目に対応したものであり、主体的・対話的で深い学びができるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (保健) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○「まめちしき」や「解説」「資料」など、詳しい内容や大事な言葉について補足してあり、理解しやすい工夫がされている。</p> <p>○インターネット犯罪について、4コマ漫画で具体例を挙げ、危険を理解しやすいように工夫されている。(5・6年 p.36)</p>	<p>○写真やイラストを効果的に使い、課題提示からまとめまで、1時間の学習の進め方が明確な構成になっている。</p> <p>○教科書に直接書き込めるようになっており、自分の考えを書いた後、友達の考えも書くようになっていいる。また、話し合い活動を通して学習を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○「体の成長とわたし」では、1歳ごろのくつや手の大きさを現在の自分と比較する体験を通して、成長を実感できるよう工夫されている。(3・4年 p.24・25)</p> <p>○保健学習の導入では、児童の健康を守る活動を紹介します、自分たちの健康について興味関心を高める工夫がされている。(3・4年 p.3)</p>	<p>○「けんこうな生活」では、1日の過ごし方のモデルを比較し、よりよい生活リズムについて具体的に考えられるよう工夫されている。(3・4年 p.12・13)</p> <p>○「体の成長とわたし」では、普段の生活でできる運動を具体的に取り上げ、体を動かすことへの意識を高める工夫がされている。(3・4年 p.42)</p>	<p>○「けんこうな生活」では、体の部分の名前を英語で紹介し、外国語との関連を図っている。(3・4年 p.10)</p> <p>○各ページで「つなげよう」の表記があり、家庭科や理科、道徳等との関連が図れるように工夫されている。</p>	<p>○QRコードやアドレスを紹介し、その学習に関連した動画やシミュレーションなどのコンテンツを利用して学習が深められるよう工夫されている。</p> <p>○AEDを使用した救急法の流れが示されており、AEDへの理解を促す工夫がされている。(5・6年 p.46)</p>	<p>○教科書に直接書き込めるよう構成されており、自分の考えを書いた後、友達の考えも書くようになっていいる。また、話し合い活動を通して学習を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○「けんこうな生活」では、体の部分の名前を英語で紹介し、外国語との関連を図っている。(3・4年 p.10)</p>
B	<p>○保健学習の導入で、夢について考えることで、健康の大切さを意識できるよう工夫されている。(3・4年 p.3・4)</p> <p>○各章のはじめに見開きでイラストがあり、身近な生活について振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○「心の健康」では、不安や悩みについて具体例とその解決法について示されており、自分の経験と照らし合わせて考えられるよう工夫されている。(5・6年 p.14)</p> <p>○シンプルなイラストを中心に、図表がバランスよく配置してあり、見やすい構成となっている。</p>	<p>○キャラクターを使って大切なポイントを押さえ、児童が興味関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「育ちゆく体とわたし」では、シールを使って身長伸びをグラフで表し、児童の興味関心が高められるよう工夫されている。(3・4年 p.25)</p>	<p>○「毎日の生活とけんこう」では、いつ手を洗うかを確認することで、手洗いの必要性について考えることができるよう工夫されている。(3・4年 p.14)</p> <p>○「育ちゆく体とわたし」では、子どもの成長を祝う行事があることを紹介し、自分を大切にする気持ちが高められるよう工夫されている。(3・4年 p.34)</p>	<p>○他教科や既習事項、また今後の学習との関連が図れるよう表示がされており、横断的・発展的に学べるよう配慮されている。</p> <p>○下段のミニちしきでは、用語の解説だけでなく、生活の中で役に立つ具体的なアドバイス等が示されている。</p>	<p>○家庭や地域で取り組むとよい活動に「おうちマーク」や「ちいきマーク」を付け、学んだことを実践的に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○QRコードから動画や資料を使い、学習を深める工夫がされている。</p>	<p>○「育ちゆく体とわたし」では、シールを使って身長伸びをグラフで表し、児童の興味関心が高められるよう工夫されている。(3・4年 p.25)</p> <p>○各章のはじめに見開きでイラストがあり、身近な生活について振り返ることができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (保健) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
M	<p>○学習のまとめに関する記述は色分けがしてあり、学習内容が分かりやすいよう工夫されている。</p> <p>○「毎日の生活とけんこう」では、1週間の生活調べの結果から、心や体の調子を整えるために必要なことが考えられるよう工夫されている。(3・4年 p.8)</p>	<p>○各章の最後には、「わたしの○○宣言」として学習のまとめを行い、日常生活に実践的に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○「調べてみよう」「話合ってみよう」等の学習活動を設定し、スモールステップを踏みながら学習を積み上げ、最後に「新しい自分にレベルアップ」で自己評価できるよう工夫されている。</p>	<p>○「体の発育・発達」では、自分の身長伸びを自ら記入しやすくしてあり、学習への興味・関心を高めるよう工夫されている。(3・4年 p.20)</p> <p>○「病気の予防」では、導入に病気についてのイメージマップを作成し、学習への興味関心を高めるような工夫がされている。(5・6年 p.30)</p>	<p>○「病気の予防」では、主なおやつ塩分や脂肪の量について考えることを通して、生活習慣病の予防への意識を高める工夫がされている。(5・6年 p.39)</p> <p>○「毎日の生活とけんこう」では、自分の生活をイラストでチェックすることで、生活リズムを整えるための実践に向けて、意識を高める工夫がされている。(3・4年 p.9)</p>	<p>○「毎日の生活とけんこう」では、手や衣類の汚れについての実験を写真で提示し、日常生活に実践的に生かせるよう工夫されている。(3・4年 p.11・12)</p> <p>○「体の発育・発達」では、新体力テストの記録や合計点が発育や生活習慣と深いつながりがあることをグラフで示し、関連が図れるように配慮されている。(3・4年 p.19,31)</p>	<p>○「体の発育・発達」では、給食の地産地消の進から郷土料理について記載し、QRコードで詳しく調べられるよう工夫されている。(3・4年 p.30)</p> <p>○「けがの防止」では、犯罪被害を防ぐ標語『きょうはいかのおすし』を記載し、意識を高める工夫がされている。(5・6年 p.22)</p>	<p>○学習のまとめに関する記述は色分けがしてあり、学習内容が分かりやすいよう工夫されている。</p> <p>○各章の最後には、「わたしの○○宣言」として学習のまとめを行い、日常生活に実践的に生かせるよう工夫されている。</p>
N	<p>○各章のはじめに4コマ漫画を掲載し、学習への動機づけを図る工夫がされている。</p> <p>○「けがの防止」では、発展学習として自然災害の中でも地震について詳しくとりあげ、地震から身を守る方法を考えることで、災害への意識を高める工夫がされている。(5・6年 p.36)</p>	<p>○学習の流れが『はじめ・なか・おわり』で構成されており、さらに、『考えよう』『話し合おう』『調べよう』などの活動が分かりやすく示されている。</p> <p>○「心の健康」では、コミュニケーションについて具体的な場面を取り上げて紹介し、よりよいコミュニケーションの方法について考えることができるよう工夫されている。(5・6年 p.15)</p>	<p>○表紙の裏ページに、アスリートから児童へのメッセージが掲載されており、保健学習への興味関心を高める工夫がされている。</p> <p>○「体の発育と健康」では、それぞれ身長伸びがあることを6人の例を挙げて、発育の仕方に個人差があるよう説明し、自分自身の発育に興味関心を高める工夫がされている。(3・4年 p.26,27)</p>	<p>○「けんこうな生活」では、スマートフォンやタブレットの使い方と生活リズムについての資料が掲載されており、具体的なルールについて考えることができる工夫がされている。(3・4年 p.15)</p> <p>○「体の発育と健康」では、運動量のめやすがイラストで分かりやすく示されており、運動量の確保を促す工夫がされている。(3・4年 p.35)</p>	<p>○「体の発育と健康」で食事のとり方や朝食、給食のことにもふれ、食の学習との関連が記されている。(3・4年 p.36)</p> <p>○「けがの防止」では、歩きスマホの危険性について具体的な場面を紹介し、日常生活で注意を促す工夫がされている。(5・6年 p.29)</p>	<p>○関連する動画のQRコードや発展学習の資料などを掲載し、学習が深められるよう工夫されている。</p> <p>○章の終わりに学習のまとめのページを設け、振り返りだけでなく、学習の確認もできるように工夫されている。</p>	<p>○各章のはじめに4コマ漫画を掲載し、学習への動機づけを図る工夫がされている。</p> <p>○QRコードを掲載しているページが多く、動画やウェブサイトを活用して、学びを広げるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (外国語) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Unit」数は、5、6年ともに8Unit 96ページである。</p> <p>○5年生のテーマは「自分・地域・日本」で、6年生のテーマは「世界の人々・世界と日本・中学校への扉」となっており、発達の段階に応じた広がりをもったテーマ設定となっている。</p>	<p>○各単元で「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」の4段階の学習をそれぞれ見開き2ページ、2単位時間で扱うよう一貫して構成されており、紙面から授業全体の流れやポイントが伝わるよう配慮されている。(5年 p.12、13)</p> <p>○各単元の初めのページに最終ゴールが明示されており、児童自身が見通しを持って学習しやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」の4段階のそれぞれに「Small Talk」の例が掲載され、活用しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○巻末に活動で使うカードが用意され、またそれぞれの活動で使用した後に振り返りのページに張り付けられるようになっており、学習に興味を持って取り組んだり、学習を整理したりしやすいよう工夫されている。</p> <p>○Picture Dictionaryが教科書とは別冊でついでおり、児童の興味関心に応じて様々な方法で活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○Enjoy Communicationでは、やり取りの方法や使用する表現が示してあり、不安感を軽減して取り組めるよう工夫されている。(5年 p.14)</p> <p>○「読むこと」「書くこと」に慣れ親しませるため、1単位時間で学んだ表現を一文ずつ書き溜めていけるよう「Let's Read and Write」のページが設定されている。(6年 p86～89)</p>	<p>○各ユニットの「日本のすてき」のコーナーでは、日本で活躍する外国人の話を聞けるようになっており、グローバル社会やキャリア教育にも目が向けられるよう配慮されている。(5年 p.17)</p> <p>○各ユニットに Challenge が設けられ、学んだ表現を使って自分の日常生活に関連した事柄を話すことができるよう工夫されている。</p> <p>○単元末に異文化情報が掲載されており、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、自ら読み進めることができる。</p>	<p>○QRコードがついており、タブレット等の情報機器で読み取って活用できるよう工夫されている。</p> <p>○見開きページ2ページの上下に、歌やチャンツ、Small Talk や Word Link などがあり、指導の実態に沿って組み合わせさせて授業を構成することができるよう工夫されている。</p>	<p>○教科書本体が A4 サイズで、児童が書き込んだりワークシートやカードなどを切り貼りしたりする活動がしやすい。また、別冊で5年生から2年にわたり使用する Picture Dictionary があり、児童が自分で選んだ言葉で話したり書いたりするのにも便利である。</p>
C	<p>○各学年表紙裏に1年間で何ができるようになるかが「CAN-DO マップ」として示されており、1年間の学習事項に見通しがもてるように工夫されている。</p> <p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は5年9Lesson119ページ、6年11Lesson127ページである。</p>	<p>○導入ではその Lesson のゴールを意識できるようにしているなど、各活動のねらいがはっきりした内容が表示されている。(5年 p.6)</p> <p>○「中学校へつなげよう」という付録が巻末についており、2年間の外国語科で学んだことを復習し、中学校での学習を意識できるよう工夫されている。(6年 p.102～)</p>	<p>○鏡を用いてアルファベットと出会う展開になっており、児童の興味・関心を高められるようになっていく。(5年 p.8)</p> <p>○カードゲームをする際の例が示されており、楽しみながら英語を使う場面を設定できるように工夫されている。(6年 p.35)</p>	<p>○Let's play ではやり取りの方法や使用する表現が示してあり、不安感を軽減し取り組めるよう工夫されている。(6年 p.66)</p> <p>○日本の文化や行事など、日本固有の単語はルビを振るなど、外国籍児童への配慮がなされている。(6年 p.18,19)</p>	<p>○時間割から将来の職業や夢まで繋げられるよう工夫されている。(5年 p.25)</p> <p>○日本のことを英語で紹介したり、世界の衣食住を知ったりすることができ、世界のことを知りながら、日本の良さを再発見するように工夫されている。(6年 p.42)</p>	<p>○文字についての学習が集められ、書く活動に丁寧に取り組める工夫がされている。(巻末)</p> <p>○書く活動を15分間のモジュール学習で展開できるよう工夫されている。(5年 p.82～105)</p>	<p>○「学んだことリスト」には、活動に対応する4技能が一目でわかるよう工夫されている。(5年 p.108～113,6年 p.112～117)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (外国語) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
D	<p>○巻頭にクラスルームイングリッシュやアルファベットなど、既習事項がわかりやすく示され、学んだことを主体的に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は5年157ページでLesson10,6年153ページでLesson10である。</p>	<p>○各単元の最初のページは、大きな見開きのイラストになっており、様々な英語表現を児童から引き出せるよう工夫されている。</p> <p>○1レッスンでの内容や時間数などが「学習の進め方」で明記されており、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。(5年 p. 21)</p>	<p>○Let's Listen Let's Chant には、3つのイラストが描かれ、児童の理解を促すよう工夫されている。(5年 p. 26)</p> <p>○「英語を聞き取ろう・英語らしく話そう!」では、音の上げ下げを矢印で書き込む内容があり、音への意識を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○書く活動では、「なぞり書き」の欄が設けられ、スモールステップで学習が進められるよう工夫されている。(5年 p. 25)</p> <p>○LessonはA,B,Cの3部を組み合わせ学習し、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。(5年 p. 36~41)</p>	<p>○個数を尋ねあう活動では、身近なものを尋ねあうようになっており、活動に参加しやすくなるよう配慮されている。(5年 p. 42)</p> <p>○既習事項を用いて身近な内容を自ら発信する力をのばしている(5年 p. 79, 137, 6年 p. 77, 133)</p>	<p>○巻末に「Word List」があり、自己表現する際の助けになるよう工夫されている。</p> <p>○前学年で学習した内容がまとめられている「Pre-lesson」で内容を振り返り、確認できるよう工夫されている。(5年 p. 17~20, 6年 p. 10~16)</p>	<p>○毎時間の最初に歌う歌や、聞くことに対する細やかな手立てが工夫されている。(5年 p. 139~143, 6年 p. 135~139)</p> <p>○学習に関する情報を紹介する「コラム」が各Lessonにあり、児童の興味・関心や国際感覚が高められるよう工夫されている。(5年 p. 32, 6年 p. 38)</p>
E	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、5、6年ともに、128ページ7Lessonである。</p> <p>○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る活動と、思考判断表現を重視した活動が、バランスよく配置されている。</p> <p>○5年生のテーマは「自分・地域・日本」で、6年生のテーマは「世界の人々・世界と日本・中学校への扉」となっており、発達の段階に応じた広がりをもったテーマ設定となっている。</p>	<p>○大単元は、学びの見通しを立てる「HOP」→基礎的・基本的な知識・技能の習得「STEP」→実際の場面で表現(活用)するJUMP」という構成になっており、毎学期一つの大単元が組まれている。</p> <p>○ページ下には「Sound Chant」「Word Chant」「Talk to Friends」を設けて、帯活動につなげやすいよう工夫されている。(5年 p. 18, 19)</p> <p>○STEPの各Lessonのまとは「書くこと」を含む言語活動が設定され、自分の考えや気持ちを書き写して表現できる。</p>	<p>○小単元の最初の見開きページには児童にとって身近なイラスト及び英単語が記載され、児童の英単語や文字への関心を高められるように工夫されている。(5年 p. 16)</p> <p>○巻末に切り離して使える付録があり、児童が自律的な学びができるようになっている。</p> <p>○他文化を尊重する心を育む教材、自文化を発信する教材が配置されている。(6年 p. 36~37p. 90・94)</p>	<p>○JUMPのページには、表現活動のための手順が丁寧に示されており、不安感を軽減して取り組めるよう工夫されている。(5年 p. 36, 37, 38)</p>	<p>○「実世界の英語」のコーナーが設けられ、実際の生活につながった英語に触れることができるよう工夫されている。(5年 p. 29)</p> <p>○他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を意識した題材が取り上げられている。(6年 Lesson 6、Presentation3)</p>	<p>○Enjoy Readingのコーナーが設定され、簡単に文字を追って読んだりする経験ができるように配慮されている。(5年 p. 67)</p> <p>○二次元コードがついており、デジタル機器を使って、語句や表現の音声を聴くことができるよう工夫されている。</p>	<p>○パノラマのページなどを通して、様々な学習展開ができるよう工夫されている。(5年 p. 16)</p> <p>○HOP(見通し)→STEP(習得)→JUMP(活用)のスモールステップで大単元が構成されており、児童が見通しをもって学習しやすく、指導者も指導がしやすい。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (外国語) No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
F	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、5、6年ともに9Lessonで、5年は118ページ、6年は112ページである。</p> <p>○現行の英語教材をベースにした語彙、表現、文構造で、移行期からスムーズに教科化に慣れるように工夫されている。(5年 p.14~23)</p> <p>○児童が実際に言ってみたい、使ってみたいと思える内容で構成されている。</p>	<p>○各 Lesson では初めのページに目標が明確に提示され4つの活動を通して達成できる構成されている。</p> <p>○各単元の終わりに振り返りのコーナーを設けられ、自己評価ができるようになってきている。</p> <p>○学級での自己紹介から、学校や地域、国内、国外へと徐々に広い世界へと目を向けられるような教材の配列になっている。</p>	<p>○ゲームやクイズが多く盛り込まれており、楽しみながら慣れたり、気づいたりできるよう工夫されている。(5年 p.22,27)</p> <p>○各単元の初めは映像を見る活動が設定されており、易しく、関心を高めることができる活動から入るよう工夫されている。(5年 p.14)</p> <p>○自国も含めたさまざまな文化への関心や理解が深まる教材が盛り込まれている。(6年 Lesson3,5)</p>	<p>○各 Activity では、やり取りや発表の仕方をイラストや空欄のついた会話文で示されており、不安感を軽減して取り組みやすいように工夫されている。(5年 p.18,19)</p> <p>○各レッスンに「Sounds and Letters」のページがあり、日本語と英語との違いやアルファベットの音について興味をもって学ぶことができるよう工夫されている。</p>	<p>○学校生活にあった身近なテーマが多く設定されており仲間作りにも、つながるよう配慮されている。(5年 p.30)</p> <p>○国語の文学教材など他教科で学んだ内容を盛り込んで、読むことの負担感を軽減し、達成感を感じられるように工夫されている。(6年 p.82,85)</p> <p>○社会科や理科、キャリア教育、道徳、国語科などと関連した単元を設定している。(6年 Lesson5,8 Let's Read and Act)</p>	<p>○音声や文字のコーナーが各単元末に独立したコーナーとして短時間で少しずつ学習しながら慣れるよう工夫されている。(5年 p.21~23,88)</p> <p>○巻末に各レッスンで使用できるワークシートがあり、活用しやすい。</p>	<p>○イラストを多く提示するなどして、活動がイメージしやすいような紙面づくりが工夫されている。</p> <p>○各単元で、映像を見て概要をとらえ、聞いて慣れ親しむ、発信する活動へと流れが一貫しており、見通しをもって学習しやすいよう工夫されている。</p> <p>○これまでの外国語活動のテキスト「We Can」の内容が踏襲されており、指導がしやすい。</p>
I	<p>○「5(6)年生でできるようになること」では、領域ごとに学習する内容が確認できるようになっている。(p.8,9)</p> <p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Unit」数は、5年9Unit140ページ、6年9Unit144ページである。</p>	<p>○ページの横にある「一言フレーズ」や「発音」では、考える視点や発音のポイントを載せており、児童の学びのヒントになるような構成になっている。(5年 p.72,74,6年 p.104,106)</p> <p>○各 Unit は Hop、Step1、Step2、Jump で構成され Jump では自己表現活動がある。(5年 p.21)</p>	<p>○「You can do it」ではなく、「やりたいスポーツ」を尋ね、書くことで児童の活動への興味・関心を引き、また、友だちの意外性に触れることができるよう工夫されている。(6年 p.45)</p> <p>○児童に親しみのあるイラストが描かれ、場面設定も日本語で書かれており、工夫がされている。</p>	<p>○「Jump!」では、見開きで左側にこれから書く文章の例が示されていることで、自分のことについて書くときのヒントとなるよう工夫されている。(6年 p.34,35)</p> <p>○カードを選んで英文をつくる活動では、児童が自らカードを選び構成を考えて作文をすることができるよう工夫されている。(6年 p.102)</p>	<p>○場面や状況に応じて言い方や言葉の選び方を考える力を養うことができるよう工夫されている。(5年 p.92,93,6年 p.90,91)</p> <p>○語順の特徴に気づくために、理科で学ぶ食物連鎖の知識をヒントにシールを使って楽しんで学べるよう工夫されている。(6年 p.69)</p>	<p>○巻末にペンマンシップノートが付けられており、文字の練習が繰り返しできるよう工夫されている。</p> <p>○「世界の友達」では、自分と同じ年の外国の子どもについても映像連鎖の知識をヒントに通して学び、多様な価値観に触れられるよう工夫されている。(5年 p.50,51)</p>	<p>○相手意識をもった言葉やジェスチャーなどについてのコーナーがあり、相手を意識したやり取りができるよう配慮されている。(6年 p.67)</p> <p>○単元の最初のページに最終ゴールとそれぞれの時間の主活動が明記され、各単元6~8時間の見通しがもてるよう工夫されている。(5年 p.41,6年 p.61)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (特別の教科 道徳) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
A	<p>○教材の冒頭で、取り扱う内容項目について児童に分かりやすい言葉で記載されており、見通しをもって学習できるようになっている。</p> <p>○「紙しばいをつくって発表しよう」では、4枚の挿絵をもとに物語を作る活動が設定されており、絵を手がかりにして感謝の気持ちについて多面的・多角的に考えられるように工夫されている。(4年 p. 96～p. 99)</p>	<p>○全学年に設定されている「出会う・ふれ合う」では、コミュニケーション活動が例示されており、学級での人間関係の構築につなげられるように構成が工夫されている。</p> <p>○3年生以上に設定されている「問題を見つけて考える」では、教材の冒頭に考えるポイントを示しており、問題の焦点化が図られるよう工夫されている。</p>	<p>○「星野君の二るい打」では、漫画形式で掲載されており、児童が興味を持って読み進めることができるよう工夫されている。(6年 p. 80～p. 83)</p> <p>○巻末の振り返りページでは、塗り絵形式で学習の記録を記すようになっており、児童の興味・関心を高める工夫がされている。</p>	<p>○全学年に設定されている「いじめのない世界へ」では、いじめ問題を扱った教材と、「いじめをしない、許さない心」の育成に関連した教材を設定することで、いじめ問題についての考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>○「心を形に」では、進んで挨拶をすることについて考える教材となっており、島根県の「ふるまい向上」の取り組みと関連付けて学習することができる内容となっている。(6年 p. 10～p. 12)</p>	<p>○巻末付録の「つながる・広がる」では、教材に関連した写真や資料が掲載されており、他教科と関連づけて学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○「みんないっしょ」では、身近な遊びの場面から問題解決的な学習ができるよう工夫されている。(1年 p. 26～27)</p>	<p>○「ようこそ1年生」は、児童に小学校生活へのイメージをもたせる内容となっており、幼児期の教育からスムーズに移行できるよう配慮されている。(1年 p. 6～p. 11)</p>	<p>○全学年に設定されている「いじめのない世界へ」では、いじめ問題を直接的に扱った教材と、間接的に扱った教材が配置されており、複数時間にわたり、いじめ問題について深く考えられるよう工夫されている。</p> <p>○全学年に設定されている「活動型教材」では、活動を通して児童の自主性を促すとともに、多様な考えを引き出すことができるよう工夫されている。</p>
D	<p>○発達段階に即して精選された教材 35 時間分が納められており、ページ数も抑えられている。(3年 p. 132)</p> <p>○高学年でも、見開き 2 ページを基本とした分量を基本としている。</p>	<p>○それぞれの個性を認め合い、多様な人々とよきよい社会を築くための、人権に配慮した教材が全学年を通して扱われている。(1年 p. 20～)</p> <p>○「マザーテレサ」「二宮金次郎」といった偉人や、「荒川静香」「吉田沙保里」らスポーツ選手の生きざまを通して、生き方を学ぶことができる教材が扱われている。</p> <p>○教材文の冒頭に主題を入れないことで、先入観を持たずに多面的に考えることができるように工夫されている。</p>	<p>○「はなかつぱ」などの児童にとって身近なキャラクターや漫画、迫力のある写真を使うなど、児童の驚きや興味を喚起するような工夫がされている。</p> <p>○出雲市で開催されたマラソン大会で、初の全盲ランナーが誕生したことを扱った地元教材を使用している。(4年 p. 128)</p>	<p>○いじめや人間関係に関する教材が年間数時間扱われており、年間を通していじめに向き合う心を育むことができる教材配列となっている。(5年 p. 100～103)</p> <p>○全学年、児童の具体的な生活場面に即した教材において、情報モラルの問題を扱っている。(4年 p. 10・11)</p>	<p>○実生活における身近な問題を、漫画形式などで、発達段階に応じた形で取り扱われており、児童が実感を伴って考えることができるように配慮されている。(1年 p. 58・59)</p> <p>○学年によってはグラフを使い、算数の学習と関連付けて考えることができるように工夫されている。(3年 p. 85)</p>	<p>○「?まなび」には、自分や友達の考えを書く欄に加え自己評価欄があり、同じ内容項目の学びを重ねる中で、児童の変容が一目で見とることができる工夫がされている。</p> <p>○年度初めの学級づくりに役立つ活動が、冒頭に掲載されている。</p> <p>○一回り大きい「ユニバーサルデザインフォント」、広い行間、ユニバーサルデザインの監修を受けた色・デザインの採用など、読みやすくするための工夫が随所に見られる。</p>	<p>○道徳的な価値や課題と出会うための「!きづき」をもとに考え、議論し、深め合うための「?まなび」の、2冊で構成されており、学びを自己につなげられるように工夫されている。</p> <p>○各学年の表紙のキャラクターがつながっており、道徳の学びが6年間つながっていることも表されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (特別の教科 道徳) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
F	<p>○考え、議論する時間が十分にとれるよう、教材文やイラストが精選されている。35時間分の教材が、3年生では、148ページに収められている。</p>	<p>○内容項目ごとに教材が掲載されており、多面的・多角的に考え、道徳的価値の深化・統合を図ることができるように工夫されている。(1年「12 ハムスターの赤ちゃん」「13 いのちのはじまり」「14 生きているじぶん」p40～47)</p> <p>○「考えよう」「深めよう」の欄には発問が掲載されており、道徳的価値を意識して授業を進めることができるように工夫されている。</p>	<p>○拡大導入を展開前に設けることで、いじめを自分たちのこととして考えながら次の教材へ進むことができるようになっていく。</p> <p>○オリンピック選手や、山中教授・野口英世といった世界的な偉業を成し遂げた人物を取り上げており、児童が興味を持って学習し、生き様から学ぶことができるように工夫されている。</p>	<p>○巻末には、発達段階に即し、その学年で身に付けておきたいふるまいについて紹介されている。</p> <p>○教材の中に「やってみよう」の欄を設け、動作化や役割演技を通して道徳的価値についてより深く学べるようになっていく。(1年「なかなかおぼろげ」p.36～39 やってみよう①～③)</p>	<p>○読み物教材とモラルスキル教材が組み合わされていることで、学んだことを自分のものとするようになっていく。(4年「いじめについて考えよう」「8 プロレスごっこ」p.36～41)</p> <p>○他教科や特別活動などの実施時期を考慮した教材配列となっており、連携がはかりやすくなるように工夫されている。</p>	<p>○巻末に、学習に役立つウェブサイト「まなびリンク」の情報が掲載されている。</p> <p>○ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。</p>	<p>○低学年では動物を中心とした物語教材、中学年では生活場面を中心とした教材、高学年では人物の生き方から自己の生き方を考える教材を多く取り上げ、発達段階に合わせて教材のタイプが工夫されている。</p> <p>○日本の技術を取り扱った教材が取り上げられており、開発者の生きざまだけでなく、日本のものづくりのすばらしさにもふれることができるように工夫されている。</p>
I	<p>○学年ごとの重点項目は、複数の教材やコラムで扱われており、確かな学習経験となるよう配慮されている。</p> <p>○発達段階に即して精選された35時間分の教材が収められている。</p>	<p>○3学期制に合わせ、全体を3つのまとまりに分けた構成がなされている。</p> <p>○等身大の児童や先人、現在活躍する人物など、多様な教材が配されている。</p> <p>○教材末に「考えよう・話し合おう」が設けられており、自分に引き寄せて考えたり、問題解決のために話し合ったりすることができる構成となっている。</p>	<p>○「アンパンマンのマーチ」の歌詞や漫画形式の教材、見開きの1枚絵などから考える教材を取り上げ、興味を持って学習できるように工夫されている。(5年 p.191～195)</p> <p>○教材冒頭にキャラクターによる児童への呼びかけの言葉、教材末に学習のてびき「考えよう・話し合おう」の欄を設け、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。(5年 p.63～71)</p>	<p>○内容項目が教材冒頭のマークと主題で示されているので、年間指導計画を作成する際に、有効に活用できるようになっている。</p> <p>○島根県が取り組んでいるふるまい事業とかかわりがある内容が扱われている。(3年 p.13～15)</p> <p>○いじめ問題やインターネット・ゲームを取り扱った情報モラルなどの現代的な課題も、発達段階に応じて取り上げられている。(3年 p.17～23)</p>	<p>○第2学年以上の教材末には「つなげよう」が設けられ、道徳での学びを他教科や日常生活につなげられるよう配慮されている。</p> <p>○第3学年以上の長期休み前に、「環境」等のコラムを設け、主体的な学びに生かせるように工夫されている。(3年 p.70～71)</p> <p>○音楽会・遠足などの学校行事を題材にした教材が配列されており、学校生活の中で道徳的価値に気づくことができるようになっていく。(5年 p.85～88)</p>	<p>○各学年の担当漢字にはすべて振り仮名が付けられ、注釈も随所に配されている。</p> <p>○美しい挿絵がふんだんに配されている。</p>	<p>○自己評価の記録を残す「学びの記録」が学年3か所に位置付けられており、自信の変化や成長を自覚できるように工夫されている。(1年 p.36・37)</p> <p>○友達との関わり方やコミュニケーションの取り方などに関するコラムが繰り返し扱われ、人間関係の構築に生かせるように工夫されている。</p> <p>○A4版を採用しており、1年生でも持ちやすいように配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (特別の教科 道徳) No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
L	<p>○児童の発達段階を考慮した内容であり、校種間連携にも配慮されている。</p> <p>○各学年 35 時間分の教材のほかに、「ふろく」として 3 教材が収められており、児童の実態に合わせ入れ替え、指導できるように工夫されている。</p>	<p>○各教材にはすべて主題名、道徳的価値、発問例が示されているため、児童が見通しを持って学習することができるようになっている。</p> <p>○題名の後に前書きと登場人物が示されており、教材の世界に入りやすいように工夫されている。</p> <p>○「学習の手引き」では、話し合い活動を設定し、考え・議論する道徳の具現化を図るように工夫されている。</p>	<p>○漫画形式、児童に親しみのあるドラえもんやスポーツ選手などを扱った教材を取り上げ、興味を持って学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○見開きでの1枚絵や写真などを使い、視覚的な効果を活用して学習できるように工夫されている。</p>	<p>○各学年、いじめ防止に関わる教材とコラムを複数組み合わせたユニットが学期に1回配置されており、集中的に考えられるように工夫されている。(4年 p.90～95)</p> <p>○現代的・社会的課題に対応できるように、全学年、情報モラル・キャリア教育の問題を扱っている。(4年 p.10～11)</p>	<p>○問題解決的・体験的な学習が適している教材には、学習の流れを示した「学習の手引き」が挿入されており、思考と対話を促した上で学習の参考になるように配慮されている。</p> <p>○国語や社会科との関連が図られている教材が扱われている。(3年 p.46～49)</p>	<p>○パソコンマークがついている教材は、Web サイト上のデジタルコンテンツで、さらに学習を深めることができるように工夫されている。</p> <p>○文字や色調については、ユニバーサルデザインに基づいた配慮がなされている。本文の割り付けも、読みやすいまとまりで改行されている。</p>	<p>○「心のベンチ」では、教材と関連した内容や活動を例示することにより、道徳的価値への理解を深めることができるように工夫されている。</p> <p>○別冊の「道徳ノート」がついており、書く活動を通じて、自分の考えや友達の考えを確かめ、話し合う中で、多面的に考えられるように工夫されている。</p>
N	<p>○教材には、前学年までの漢字が採用されており、1～3年は総ふりがなを記すことで読みやすいように工夫されている。</p> <p>○教材の冒頭では、取り扱う内容項目を記載しており、児童に考える視点を与えるよう工夫されている。</p>	<p>○教材の下部に、子どもの思考により寄り添う問いや考えるためのポイントが提示されており、主体的な学びにつながる構成となっている。</p> <p>○巻頭では、8 ページにわたって道徳の学習の流れについて掲載されており、学習のイメージをもちやすいように構成が工夫されている。</p>	<p>○「まちたんけん」では、漫画形式で掲載されており、児童が興味を持って読み進めることができるよう工夫されている。(1年 p.38～p.39)</p> <p>○全学年に「ちびまる子ちゃんと考えよう」のコラムが掲載されており、児童に親しみのあるキャラクターが登場することで、興味・関心を高めるよう工夫されている</p>	<p>○全学年で「生命の尊重」を重点主題として複数時間構成で扱うことで、道徳的価値について深く考えられるよう工夫されている。</p> <p>○「あいさつでげんきに」では動作化の活動が設定されており、挨拶のよさを感じ取れるよう工夫されている。(1年 p.13)</p>	<p>○「広げる」では、各教材の内容に関連した書籍が紹介されており、読書活動と関連付けて学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○「郷土かるた」では、教材に加え、付随のコラムでの学習を通して、自分たちの地域に広げて考えることができるよう工夫されている。(3年 p.74～p.75)</p>	<p>○振り返りページにおいて、1年生の1学期は顔の表情を選択する自己評価、2学期から2年生にかけては表情と一言コメントという構成になっており、発達段階に応じて内容が工夫されている。</p>	<p>○教材の下部に、子どもの思考により寄り添う問いや考えるためのポイントが提示されており、主体的な学びにつながる構成となっている。</p> <p>○全学年で「生命の尊重」を重点主題として複数時間構成で扱うことで、道徳的価値について深く考えられるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

教科名 (特別の教科 道徳) No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1.内容、程度、分量等	2.教材の選択や構成等	3.興味・関心への配慮等	4.教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5.各教科及び実生活との関連についての工夫	6.その他	
O	<p>○教材の冒頭で内容項目を記載しないことで、特定の価値を押し付けないよう工夫されている。</p> <p>○教材は見開きで始まるように配置されており、児童が内容に集中しやすいよう配慮されている。</p>	<p>○「みんなあかちゃんだったよ」では、実寸大の赤ちゃんの写真を掲載しており、写真を活用することで学びが深まるよう構成が工夫されている。(1年 p. 36～p. 37)</p> <p>○「友だちが泣いている」では、役割演技を通して、登場人物に対するアドバイスを考えることができるよう構成が工夫されている。(4年 p. 60～p. 61)</p>	<p>○全学年において写真やイラスト、漫画など様々なビジュアルが掲載されており、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○表紙に登場するキャラクターが各学年の教材にも登場することで、登場人物の成長に自身の成長を重ね合わせることができるよう工夫されている。(1年 p. 32～34)</p>	<p>○「いのち」を全学年の最重点テーマとし、「生命の尊さ」と「生き方」に関する教材をそれぞれ複数設定することで、考えを深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○「だれも見えていない」では、教材文に対する複数の意見を取り上げており、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。(1年 p. 52～p. 53)</p>	<p>○「アルソミトラの空」では、種子が飛んでいく様子について描かれており、理科の植物の成長の学習と関連付けて学習できるよう工夫されている。(5年 p. 160～p. 163)</p> <p>○「会話のゆくえ」では、スマートフォンでの会話のやり取りを取り上げており、実生活と関連付けて考えることができるよう工夫されている。(6年 p. 110～p. 111)</p>	<p>○巻頭に現在の自分のことについて書くページ、巻末に1年間の学びの振り返りを書くページが設定されており、1年間の自身の成長を感じることができるよう構成が工夫されている。</p>	<p>○全学年において掲載されている写真やイラスト、漫画などの様々なビジュアルを活用することで、児童の興味・関心を高めるとともに、学習内容のイメージを膨らませることができるよう工夫されている。</p> <p>○「生命の尊さ」と「生き方」に関する教材をそれぞれ複数設定することで、広く深い学びができるよう工夫されている。</p>
P	<p>○高学年において、文章の難しい語句についての脚注が示されており、内容理解を促す工夫がされている。(5年 p. 2)</p> <p>○低学年では、学習する内容項目が記載されており、児童に見通しを持たせることができる。</p> <p>中・高学年では、内容項目に直接触れないことで、児童が内容を先読みしないよう工夫されている。</p>	<p>○本冊と別冊の2冊を併用することで、考えを深めたり、自己を見つめたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○中・高学年では、本時のめあてとなる「学習の道すじ」が示されており、児童の主体的な学びの助けになるよう工夫されている。</p>	<p>○先人や著名人など全学年で合計40名以上の人物を教材として扱っており、様々な生き方や考え方に触れることができるようになっている。(1年 p. 106～p. 111)</p> <p>○「ふわふわことばちくちくことば」では、別冊ノートを活用して体験的な活動を取り入れ、道徳的価値についてよく深く考えることができるようになっている。(2年 p. 74～p. 75)</p>	<p>○全学年共通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」を重点項目とし、関連する教材の一部を2時間連続で配置して、指導の重点化を図れるようになっている。</p> <p>○全学年に「命の教育」に関する特別ページを設定し、低・中学年では「命を守る」こと、高学年では「生命の尊さ」について思考を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○「ごめんね、オオキンケイギク」では、理科の植物の学習や環境教育に関連させて学習できるよう工夫されている。(4年 p. 18～p. 21)</p> <p>○「達也の転校」では、情報モラルや、情報通信機器との関わりによる心身の健康について関連付けて学習できるよう工夫されている。(6年 p. 16～p. 19)</p>	<p>○別冊の「道徳ノート」は、内容項目に関するページと自分の学びを記録するページで構成されており、児童が自身の成長を実感できるよう工夫されている。</p>	<p>○本冊と別冊の「道徳ノート」との併用で、考えを深めたり、自己を見つめたりできるよう構成が工夫されている。</p> <p>○中・高学年では、本時のめあてとなる「学習の道すじ」が示されており、児童の主体的な学びの助けになるよう工夫されている。</p>